10
2011
October Vol.615

BRIDGE

東北電力社誌
「ブリッジ」



特集
それぞれの3.11
［石巻技術センター］

CONTENTS

vol.615 2011 10

■表紙の写真から



石巻技術センター送電課の高橋健太さん（左）と新入社員の佐々木俊さん（右）。先輩から脈々と引き継がれてきた電力マンのDNAが，石巻では復旧作業を通じて次世代へと引き継がれていた（P.01）

01 特集
それぞれの3.11 ―石巻技術センター―

ふるさと復興応援団！ vol.2
13 小さな復興プロジェクト「onagawa fish」

14 知っておきたい放射線の話

Monthly News
15 ■社長記者会見が行われる

16 ■第125・126回永年勤続者感謝状贈呈式を開催

17 ■電力流通本部「気づき顕彰」の発表・授与式を開催

18 ■復興支援イベント「明日に向かって，ともに前へ」をグリーンプラザ（仙台）で開催

19 ■第16回三経連経済懇談会が開催される

20 今夏の需給状況

21 風力発電導入拡大に向けた実証試験に関するQ&A

23 福島支援本部「電力支援チーム」の活動状況

TOPICS 総務部
27 第1回大規模災害対策防災会議を開催

28 知っ得!法令知識［第7回］

29 退職者の方々

30 掲示板

DATA FILE
電力需給実績／株価・出来高



それぞれの3.11

石巻技術センター

引き継がれる電力マンDNA

3月11日に発生した東日本大震災。それぞれの事業所では何があったのか,そして,どんな思いで復旧に携わり,そこから何を得たのか。

BRIDGEでは,座談会や社員のインタビューを通して,「それぞれの3.11」を振り返ります。

第2回目は石巻技術センター。管内の電力流通設備に大きな被害が発生しながらも,被災地へ電気を送るため,一致団結して復旧に当たった思いをお伝えします。

座談会 部門を超えた一致団結

津波によって，管内の電力流通設備に大きな被害を受けた石巻技術センター。地域のお客さまに電気を送るためには，早期に変電所まで送電しなければなりませんでした。
ここでは，座談会を通して，当時，石巻技術センターでは，何があったのか振り返っていきます。



今回座談会に出席いただいた（左から）千葉利行制御主査，菅井匠発変電主査，山田佐佳所長，渡辺啓喜送電課副長，今野克也安全主査

大きくなる揺れに覚悟を決めた

司会
「それぞれの3・11」の第2回目ということで、今回は石巻技術センターでは何があり、どんな思いで復旧に取り組んできたのか、この震災から得たものを語り合っていただきたいと思います。

山田所長
3月11日、石巻技術センターは普段と変わらない金曜日の午後といった雰囲気でした。
午後2時46分。地鳴りとともに揺れが始まりました。比較的大きな揺れを感じると、いつも「宮城県沖地震がとうとう来たか！」と覚悟するのですが、3月9日の大きな地震も宮城県沖地震ではなかったこともあり、「そのうち収まるだろう」と思っていました。しかし、どんどん大きくなる揺れに、「もう収まってくれ」という希望ははかなく消えていきました。
揺れはさらに大きくなり、所内の電気が消えました。「震度6強？6弱？宮城県沖地震とは、これほどまでに大きな揺れなのか!?」と覚悟を決め、窓の外を見ました。
駐車場には、現場から戻って来た工事会社の方が立つことができず、地べたに座り込んでいます。道路の向こう側は、電柱が根元から折れるのではないかというくらい揺さぶられ、配電線もヒュンヒュンと跳ね上がっています。その隣に目をやると、154kVの送電鉄塔があるのですが、そちらはそれほど大きな動きもなく、「これは地震による被害。準備は念入りに行ってきたので復旧にそれほど時間はかからないだろう」と思いました。
発変電課と同じフロアにいるのですが、所員は揺れですぐには逃げられない状態で、「立ちすくむとはまさにこういうことなのか」と思いました。皆顔を見合わせているような感じでしたね。



山田所長

渡辺副長

私は当日、所内にいましたが、この揺れは今まで経験したことがないほど、非常に大きなものでした。

「所内にいては危険だ」と感じ、中庭に皆で避難しました。ある所員は、地震発生時に社有車を運転していて、道路が波打っている様子がよく分かったと話していました。



渡辺副長

千葉主査

私は制御室にいたのですが、監視制御システムから故障を知らせる警報がしきりに鳴りました。しかし、系統の状態を確認できる状況になく、身を低くして揺れが収まるのを待つことしかできませんでした。

揺れが収まり周囲の様子を確認しましたが、机は1メートル以上移動し、ブラウン管型の訓練用モニターなどは転落していました。

「肝心の電力系統はどうなったんだ?」と不安の中、系統監視盤で確認すると、石巻技術センター管内の全変電所が電圧・電流ともにゼロの停電状態にあり、上位系統もよく分からないといった状態でした。



千葉主査

菅井主査

私は休暇を取っていて、寮の部屋にいました。地震が起きると時計を見る癖がついているのですが、時計を見て2分もたっているのにまだ揺れている…。地震に対しての時間の感覚というのはそれなりに持っているつもりだったのですが、それでも長いなという感覚でした。

部屋の中の本棚が倒れてきました。夜はその脇で寝ており、「もし夜中に地震が来たら…」と思うとゾッとしました。その本棚は、部屋の入口をふさいでしまったものですから、部屋から出てくるだけで15分くらいかかりました。

当日は、私のほかに制御所の佐藤さんが寮にいました。「先に行くから」と私が先に車を出しました。普段から混んでいる道路ですが、ぱっと見た瞬間「これはだめだな。真っすぐ行ったのでは絶対動かない」と思い、裏道などを使って、普段だったら30分くらいで着く道のりを、1時間以上かかってようやく技術センターにたどり着きました。私よりほんの1、2分出発が遅れた佐藤さんは、どこかのアパートの2階に避難して無事だったのですが、津波に車を持って行かれたそうです。



菅井主査

千葉主査

その第一報を聞いたのが私でした。津波が来たという情報があったので、車を置いてすぐ近くのアパートに逃げ込んだそうです。とりあえず、本人の無事が確認できたのですが、それから全く連絡が取れなくなりました。

12日の朝になっても全く連絡が取れず、佐藤さんが技術センターに着いたのが12日の午後3時くらいでしょうか。「どうやって来たの?」と聞いたら、12日の朝になっても水が引かず、居てもどうにもならないので歩いてきたそうです。足元を見ると、靴は泥だらけ。必死になって技術センターまで歩いてきたのが分かり、本当に助かってよかったと思いました。

今野主査

私は、宮城県富谷町の自宅にいました。

ガタガタという音がし、「いつもの地震程度かな」と思いました。周りに家族もいましたので、慌てると父親の面目が潰れてしまいますし(笑)、どっしりと座っていました。それで揺れ始まって、「長いなぁ」と思ったんです。次第に揺れが大きくなって、「家がつぶれ、押しつぶされるんじゃないか」と感じ、家族に「テーブルの下に隠れろ!」と叫びました。私も「ついに宮城県沖地震が来たな」と思いました。

その瞬間ですかね、パッと電気が消えました。すぐにラジオをつけ、震度の大きさを確認すると、「やは

り6強か」ということで、すぐ技術センターへ向かいました。

道路は陥没・亀裂があったり、斜面が崩れていたりと、迂回しながら通ってきました。向かう途中、防災無線で津波警報が発令されたという放送をしていました。ラジオでも聞いていたのですが、「まさか技術センターまでは来ないだろうな」と思っていました。技術センター近くに青木川という川があるのですが、そこの水位を見たら堤防ぎりぎりまで水が来ていました。「これは津波じゃないのか?技術センターまで行っているんじゃないか?」という不安が頭をよぎりました。

普段1時間くらいで到着できるのですが、3時間くらいかかりました。所内に入ったら、ちょうどヘルメットをかぶった所長とすれ違ったことが印象に残っています。


今野主査

まさか鉄塔が流されるのか…

司会

所内が停電していたということですが、情報などはどうやって得ていたのですか。

山田所長

非常用発電機をすぐに立ち上げました。テレビには名取や岩沼の様子が映し出され、真っ黒い津波が田んぼとか家屋を飲み込む映像が放映されています。志津川変電所が流されたということは、翌日の朝に志津川の町がないという情報が入ってきて初めて分かりました。

司会

制御所でもそのような情報は入ってこなかったのですか。

千葉主査

沿岸部の通信回線が途絶えてしまい、情報が入ってきませんでした。もちろん遠隔で操作するカメラも使えず、通信が途絶えてからは、故障を知らせる表示もどうなっているかまったく分からない状態となりました。

沿岸部の変電所が地震で崩れているのか、津波が来ているのかまったく分からない状態です。震災後初めて変電所の状況を確認できたのが、上空から撮影した写真でした。それで被害状況を確認しました。

山田所長

松鹿線の鉄塔が倒壊した様子は、テレビの中継で見ましたね。

渡辺副長

そうですね。テレビ中継が最初ですね。

気仙沼のフェリー乗り場に送電鉄塔があるのですが、その鉄塔が津波で流される瞬間が映っていました。

今野主査

フェリーのようなものが流されてきて、鉄塔にぶつかったような感じでした。

渡辺副長

本当にあぜんとしました。「まさか鉄塔がここまで流されるのか」って、自分の目を疑ってしまいました。

今野主査

電力流通設備自体は、地震には比較的強いものだと考えています。この揺れでは、ある程度は被害が発生すると感じていましたが、設備自体が壊れて停電が長期化するというところまではいかない。そして、復旧にはそう長くはかからないだろうと…。

でもそれは、津波による被害は抜きにしてということです。今までの訓練でも、津波は想定していましたが、これほどまでに甚大な津波の被害が出るということは私自身イメージができませんでした。


倒壊した松鹿線

「まずヘルメットをかぶれ!!」この言葉でハッとわれに返った

司会　津波被害からの復旧は初めてということになりましたが、どのように進められていったのですか。

山田所長　初めは、津波による甚大な被害が出たことが、まだ分からない状態でした。とにかく、いる人で対応しなければいけませんから、それぞれの副長が班分けして、指示を出していました。

ただ、地震の揺れが収まり、次にやるべきことは頭で分かっているのですが、皆さん気が動転しているようでした。

その時、発変電課の佐藤副長が「まずヘルメットかぶれ‼」と叫びました。皆さんハッとわれに返ったんじゃないかなと思います。これから何をやるべきなのかが、その言葉ではっきりとイメージできたのではないかと思います。

千葉主査　制御所では所員が制御室に集まり、まずは系統事故・トリップ状況の把握をすることから手分けして行いました。

電源側から復旧していかないと、配電線まで送ることができません。ですから、大きい変電所をメーンにまず巡視を行い、受電していこうということで始まりました。技術センターに隣接する西石巻変電所、近くにある石巻変電所、それから発変電課の所員が気仙沼変電所にいたものですから、主要となる大きい変電所をまず見てもらうことができました。

機器の損傷具合は、地震から1時間くらいで情報が入ってきました。それから使えない設備を切り離す操作が始まりました。

停電のため、技術センターの電気は非常用発電機を使って発電していました。技術センターは系統復旧の要であり、監視制御システムが停電すると各変電所の情報が入ってこなくなります。バックアップ用の電源装置の容量も限られていますので、節電しなければなりません。

制御システムの節電運転を行い、それで何とかシステムも停電しないで済んだのかなと思います。そして、石巻変電所、西石巻変電所と復旧し、技術センターが系統からの受電ができたのが午後8時くらいでした。



3月11日午後7時ころの制御所の様子

司会　系統の健全性はどうやって分かるのですか。

菅井主査　変電所は、基本的にはパトロールに行って外観上に異常はないか、また、変圧器関係には中に油が入っているものですから、そういったものが漏れていないかを確認します。

また、電気の回路にはメガーという機器を使って絶縁性が保たれているかといったことを確認して、「使える」「使えない」の判断をしていきます。

渡辺副長　送電では、車両で巡視に向かいました。健全性の確認ということで、電線がきちんとつながっているか、碍子がちゃんと着いているか、鉄塔がちゃんと建っているか確認し、健全性を確認して初めて送電できるのです。目視で一基ずつ確認していきました。

山田所長　配電用変電所まで受電して、一軒一軒の安全を確認してやっと配電線を充電させることができます。技術センターは、その配電の出口まで充電させておくことが求められます。

石巻営業所は冠水と流されてきたがれきや車両などにより、なかなか外に出られなかったとのことでした。技術センターの建物が受電できたのは、逆に営業所に帰ることができなかった配電の方が技術センターに供給している配電線を優先して安全確認を行い、復旧してくれたから

です。後に本支店の中継点にもなり、非常に助かりました。

今野主査

それにともない、技術センター近くのガソリンスタンドや病院に供給する配電線も復旧しましたので、そのガソリンスタンドもいち早く開店して、燃料の給油を行ってもらえました。

司会

ガソリンの話が出ましたが、ガソリンの確保とか食料だとか、そういったところは苦労されたのではないですか。

今野主査

まず食料ですね。食料は備蓄分の在庫があったので、震災当日すぐ出せました。

技術センターでは予備の在庫分も数千食預かっており、支店からの食事の供給まではそれでつなぐことができました。食事の面については、恵まれていたところはあるかと思います。

足りなかったのは水でした。技術センターには、塩害防止のため、碍子に付いた塩分を洗い流す際の水を確保しているんです。その水をトイレに使ったり、他の事業所からも飲み水を供給していただき、何とかしのいだって感じでしたね。

問題は燃料でした。翌日、近くのガソリンスタンドが配電線が充電したことから、営業を再開しました。すると、皆さん知ってのとおり長蛇の列ができたのです。ガソリンスタンドの店主さんからも、「こういう状態なので災害復旧車優先とします。電力さんも良いですよ」ということで、優先的に入れてくださいました。

ただ、日にちがたっても他のガソリンスタンドがなかなか開店しないので、近隣の地域の方もそのガソリンスタンドを頼ってきます。そのため、あまり当社が目立つと大変なので1台行って補給して、帰ってきたらもう1台行くという感じでしたね。周辺に大渋滞が起きないように、工夫して給油していただきました。

司会

いろいろとそのガソリンスタンドの方に助けられたのですね。

今野主査

はい。ただ、当初はそれで良かったんですが、次第にそのガソリンスタンドの在庫もなくなってきました。支店の対策本部の方に、「ガソリンを手当てしてほしい」とお願いして、ガソリンや軽油をいろんな方面から助けていただきました。本当に燃料の確保は大変だったですね。

社員も、帰れるような状態になっても、燃料がなくてずっと帰宅できない人もいました。

司会

すると、技術センターへの泊まり込みは続いたのですか。

今野主査

当然、最初は帰れなかったのですが、設備自体がある程度復旧してから、疲れもたまってくるので帰れる人は帰ろうということにしました。燃料があるうちは帰れるのですが、それでも何回か往復すると燃料がなくなりますよね。自宅のほうでも燃料の確保ができないので、あとは何回か帰ったら技術センターに寝泊まりしていました。

山田所長

ここは、自動車でないと通勤できません。ただ、マイカーが流された方もたくさんいらっしゃると聞いた時は、燃料どころではないなと思いました。

収まらない余震の中安全第一で復旧する

菅井主査

燃料の確保も大変でしたが、地震直後から続いた停電が長期化し困ったことがありました。保安電話をはじめとした通信回線が、だんだんと使えなくなってくるのです。

末端の配電用変電所によっては、なかなか電気が復旧できない場所があるわけですね。停電に備えて通常バッテリーがあるのですが、時間がたつにつれてそのバッテリーもなくなってきます。無線も場所によっては通じません。

いったん変電所から出て、無線が通じるところまで行って通話して、



津波により大きな被害を受けた志津川変電所

また変電所に戻ってということを何回も繰り返さなければなりませんでしたね。

千葉主査
保安電話や携帯電話が使えない中、会社の無線と衛星電話が主な通信手段でしたね。
衛星電話も向きがあるみたいで、南側が入りやすいようでした。事務所と当直で状況を伝達しながら、現地と連絡をしたということが記憶にあります。

菅井主査
復旧の話に戻りますが、発変電としては、大津波警報が出ており海には近づけない。とにかく内陸の変電所から復旧していこうと基本方針を立てました。
内陸の変電所に皆が張り付いて、どんどん電気を受けていこうということで、栗原や登米、あとは松島方面を最初に復旧していきました。

渡辺副長
送電には、変電所に電気を送るという使命がありますので、それに向かって仮復旧を進めていきました。津波によって冠水し、人が入れない場所が結構ありました。石巻の重吉変電所の近くなどがそうです。
そういったところは、実際に倒壊した鉄塔を確認するまで、1週間くらいかかりました。現地の調査をまず行い、工事会社の方に作業をお願いして復旧を進めていきました。
復旧作業の中で一番怖いのは、余震でした。大きな余震では津波警報や注意報が出ますよね。そのとき現場にいる方に「すぐに避難してください！」と呼び掛けるんですが、そういったことに非常に気を遣いました。

菅井主査
発変電でも現場の確認を行っていて、まず最初に「今地震が来たらどこに逃げるか、それを確認してからだよ」と念入りに伝えてから、作業を行うようにしていました。


仮鉄柱の建設は急ピッチで行われた

早朝から現場へ向かう姿に胸が熱くなった

山田所長
社員も被害に遭っている中、懸命に復旧に向けて取り組んでいましたが、送電も発変電もユアテックや地元の電気工事会社の皆さんが、地震直後から、われわれと一緒になって現地の被害状況確認をはじめ、さまざまなことを協力していただきました。復旧への高い使命感は、非常に大きな力だったと思います。
送電線の巡視などは、ヘリでの巡視の後、1基ずつ踏査も行います。ですから、何十人も技術センターに集まってきて、暗いうちから出掛けていくのです。
見ているとオーラが出ているというか、分かるんですよね。「これから行くんだ」という気概が感じられました。
「皆さんのおかげで、あと少しで変電所まで電気を送ることができます。もうひと頑張り、よろしくお願いします」と声を掛けたら、「分かりました。任せてください！」と力強く答え、現場に向かっていく姿を見て、思わず胸が熱くなりました。

司会
電気を復旧させるという使命感を全員で共有し、一つになっていたのですね。

山田所長
そうですね。工事会社さんには、われわれ東北電力の指示とかでいろいろと動いていただいたわけですが、現場で作業する一人一人に感謝したいという思いがありますね。
もちろん、余震や津波ということを心配しながらだったのですが、「とにかく電気をつけなければならない」という一念だったのだと思います。

司会
他の事業所との連携はどうでしたか。

渡辺副長
津波の被害を受けた鉄塔を復旧するために仮鉄柱を建てるのですが、土地の所有者を捜さなければなりません。用地センターの皆さんが率先して動いてくださったこともあり、早期に仮鉄柱を建てることができました。

菅井主査
変電所もそうです。志津川変電所

が流失してしまい、別の場所に変電所を造らなければなりません。早期に変電所用地を確保してくださり、そこに仮設の変電所を設置することができたので、1カ月余りで地域に電気を送ることができたのです。

また、他支店からの応援も心強かったですね。通信手段がない中で、受電している変電所は直接運転といって、現地に社員が行って対応していなくてはなりません。各支店から応援をいただき、何とか運転することができました。

司会

石巻技術センターでは、女川原子力発電所につながる送電線も管理していると思いますが、どう対応されていたのですか。

渡辺副長

超高圧の送電線からまず巡視点検して、異常がないことを確認しました。

菅井主査

もともと「宮城県沖地震」が頭にありますから、電力流通設備について時間をかけて耐震対策を施してきました。そういったところが、今回の大震災で功を奏した部分でもあるんじゃないかなと思います。

千葉主査

制御所だけではどうしようもできなかったので、それぞれが連携して安全に送れるところから送っていこうと方針を立てました。

普段、制御所としては、クイックトレーニングといって地震などで局地的な被害が発生したところをどうやって復旧するかといった訓練を行っているのですが、今回の地震に関して、これほどまでに壊滅的な被害が発生したので、「どこから復旧させるか」という感じではありませんでした。まず健全性確認で、確認できたところから復旧していこうということでした。



限られた照明の中で,復旧に向けた計画が話し合われた

電気を届けるのが使命 電力マンをやっていて本当によかった

司会

ではこの震災から得た教訓を教えてください。

菅井主査

常日ごろから準備しておくということが、いかに大事かということを今回の震災では学びました。地震の揺れに対してこれまでやってきたからこそ、それなりに対処できました。ただし、津波というのは今後どう対処していくのか、あらためて考えていかなければならないと思います。新たな課題に対し、どのように対処していくのかですね。

最後にうれしかったことですが、何日目だったか忘れてしまいましたけれども、本当に周りはずっと真っ暗でした。技術センターに帰ってきたら明かりがついていて、電気が持つ安心感をわが身で実感しました。この電気をお客さまに届けるのが電力マンの使命ですよね。電力マンをやっていて本当に良かったと思いました。

渡辺副長

やはり、日ごろからの備えが一番大切かなと実感しました。それとコミュニケーションですよね。社員の間はもとより、工事会社を含めた平時からのコミュニケーション作りが一番大切かなと思いました。「地震・雷・火事・親父」と言いますけれども、やっぱり地震が一番怖いなと実感しましたね。

千葉主査

第一に連絡手段をどう確保するかですね。お客さまをはじめ、それぞれの変電所、家族ともです。復旧活動をしていて連絡手段は今後のテーマですね。

そして、送電・発変電、関係各所が連携し、安全を考え迅速に一致団結することが必要ですね。それは平時も含めてです。一致団結して復旧に当たることができたからこそ、このような大規模な災害の中であっても、2日ないし3日で復旧できるところは復旧することができました。そのときの達成感といったら、何とも言えないですね。

制御所は、さまざまなところから情報収集できる立場にあります。今回のような千年に一度とも言われているような大地震を経験した今だからこそ、この震災を振り返り、その検証と後世に引き継いでいくための資料を今一丸となって作っています。

電力マンとしてのDNAを次の世代へ

今野主査

この震災で思ったのは、やはり人の力、人と人とのつながりなんじゃないかなと思いました。

この事業所だけで復旧作業が順調にいったわけではありませんでした。地域の方々の支えというものが非常に大きかったのです。「ガソリンを優先的に提供しますよ」という申し入れもそうですが、民宿の方が断水している中、湧き水や沢水などでお風呂を沸かして入らせてくださいました。くたくたになって帰ってくる中、そのお風呂は本当にありがたかったですね。

それと、技術センター周辺に住んでいらっしゃるお客さまは、なかなかコールセンターもつながりづらい状態でしたので、技術センターにいらっしゃるんですよ。お怒りや苦情かと思って恐縮してお話を伺うのですが、「こんなに忙しいときに申し訳ない」と逆に恐縮され、最後は感謝と激励をされていかれるのです。励ましを受けて、うれしかったなというのを覚えています。地域の皆さまからも支えられているということを感じましたね。誰一人として苦情を言ってこられた方はいらっしゃいませんでした。

そして、他の技術センターからの支援です。業務応援だけでなく、物資や水などを一緒に持ってきてくださったり、メーカーの方から支援物資をいただいたり、他電力や本部からいろいろ支援していただきました。

燃料を除いて物資にあまり困らなかったということも考えますと、人と人とのつながり、人の力がこういう災害の時はとても強い力を発揮するということを実感しました。所長の話にもありましたが、工事会社の作業員を含め、電力マンとしての献身的な作業にも、やはり人と人とのつながりがありますよね。

電力マンとしてのDNAでもある「早期復旧、早く電気をつけるんだ！」という意識は、先輩方とのつながりの中で引き継がれてきたものです。この誇るべきDNAはまだまだ失われていないし、今後も後世に引き継がなくてはならない大切なものだと思いました。

山田所長

このような大規模な災害は、皆さん初めての経験だと思いますが、一人一人が考えて行動したのではないかと思います。

ただ、いろいろな考え方がありますので、自分の思いどおりにはいかないですよね。それでも、こうやって復旧できたということは、普段から何でも言い合える、そんな職場であったから最善と考えられる選択肢で進めることができたのだと思います。

現場第一線の事業所というのは大変な面もありますが、面白いとあらためて思いました。今年、新入社員が石巻技術センターにも配属になりました。発変電課2人、送電課2人ということですが、その中に「この被災地を管轄している石巻技術センターに配属となったことに運命を感じる」という新入社員がいまして、「なかなか気概があるな」と感じました。

こういった気概を、これから地域の復興を支える中で、大切に育てていきたいと思います。

司会

最後にこれだけは言っておきたいというものがあれば、ぜひお話しください。

山田所長

最後に一つ言っておきたいのは、前の副所長、今の盛岡技術センターの副所長をされている佐々木光彦さんが「頑張ろう石巻」というのをいろいろなところに貼っていきました。ヘルメットにもシールを作って、皆さんが貼っていました。「頑張ろう宮城」でも「頑張ろう東北」でもないんですよね。

「復興は石巻技術センターから」という思いがとても強かったのです。私がいつも言っている「明るく元気に素直に」「みんなで支え合う」、そして「頑張ろう石巻」。石巻技術センターはそういう思いと一人一人の思いで、地域の復興に向けて歩んでいきたいと思います。



所内に掲げられている「頑張ろう石巻!」



制 御 所

伊藤 雅志さん

電力マンとしての使命感に燃えた

鳴り止まない警報

3月15日に運用を開始する予定であった新設の釜谷変電所の打ち合わせ直後に,大きな揺れに襲われました。非常に長い時間の揺れ,しかもだんだん強くなっていったような揺れ方で,制御室に直行すると諸機器類の異常な揺れ方に恐怖を感じました。

電力系統設備の異常を知らせる鳴り止まない警報と,系統監視盤の供給支障エリアが全域に至っていることで,「これまで経験のない,大変なことが起きてしまった」とあぜんとしたことを,今でも鮮明に覚えています。

所内は,非常用電源により必要最小限の電気がついていました。テレビ中継で大津波警報が発令されたことを知りました。管轄エリアの大半が海岸付近に立地しており,設備損壊の懸念があることを所員で確認し合い,対策の検討を始めました。その矢先でした。生中継で津波による悲惨な光景がテレビに映し出されました。その光景に現実を疑い,強いショックを受けました。石巻技術センターは海岸よりかなり内陸にあるため,津波は到達しませんでしたが,それでもかなり近くまで津波が押し寄せていたと,後で知りました。

早期復旧,時間との戦い

給電部門として,非常に広範囲な停電となってしまった電力系統をいかに迅速に復旧するか。時間との戦いでもありました。特に,その司令塔となる制御システムの電源が,停電により非常用電源へ切り替わっており,その電源も数時間しか持ちません。まずはシステムの電源確保を最優先に,上位系統からの電源確保を検討したり,システム他各種周辺機器類の節電運転を迅速に行ったりと,所員一丸となって対応しました。

電源を何とか確保し,本格的な復旧が始まりました。電気を再びお客さまへ送る。お客さまは1分,1秒でも早く電気がつくことを願っています。これほどまでに,電力マンとしての使命感に燃えたことはありませんでした。大変多くのお客さまから,「電気がついて本当に安心した」「電気のありがたみを感じた」などといった言葉をいただき,その気持ちに責任を持って応えなければならないと感じました。そして,そのために「自分は今後何をすべきか」ということをあらためて考えさせられました。

この震災を経て,お客さまへの電気の安定供給のためには,最悪の事態を想定した対応や訓練などを常に行っておく必要があると感じました。「まさかそこまでひどくはならないだろう」などという今までの『想定』は,この震災を経験した後では,「何が起こるか分からない」へと,まったく考え方が変わった出来事となりました。



発変電課

「避難」を常に念頭に復旧作業を迅速に進める

佐藤 彦芳さん

妙に明るい気仙沼の町

気仙沼市内の山沿いにある気仙沼変電所での修繕工事立ち会いを終え,変電所を出発しようと門を開けたところ,地震が襲ってきました。

揺れ始めは,今まで体験したことのあるような揺れ方でしたが,しばらく経っても揺れが収まらず,さらに強くなっていきました。変電所構内のアスファルトのつなぎ目がガパガパと開閉し,変電機器が今まで見たことのない様相で壊れていきました。変電所構内にも,津波の到達を伝える市の緊急放送が聞こえてきます。

「市民の方々は避難しているのか?」「海沿いの変電所はどうなっているのか?」心配で仕方がありませんでした。

気仙沼変電所が全て停電しているため,夜は真っ暗になるはずでした。しかし,山を越えた気仙沼の町の方向が妙に明るくなっていました。それは,津波によって発生した火災によるものでした。

復旧作業では,普段以上に気を遣わなければなりませんでした。それは大きな余震が続いている中で,作業中でも「避難すること」を常に念頭に入れていなければならないことでした。何ともいえない緊張感の中での復旧作業となりました。

地域の復興に向けた歩みを目の当たりにして

震災発生直後は,これからどうなっていくのか分からない状況が続きました。震災から半年がたち,通行止めだった道路が開通したり,休んでいた店舗が営業を再開したり,復興に向け地域の方々が歩みを進める姿に,人間の力のすごさを感じています。この半年はあっという間に過ぎました。あっという間にここまで復興させる人間の力を持ってすれば,この先の復興も,そう遠くない未来なのだろうと思っています。

この震災から,「変電所における津波対策」について考えさせられました。揺れに対する対策について,変電所の備えは万全だったと思いますが,津波に対する備えはありませんでした。

津波についてどこまでの対策が必要なのか,これから本格復旧に向けて議論を進めていきます。



被災した鹿折変電所



送電課

梅津 宏さん

ラインマンとしての使命感

小雪舞う中

徐々に強まる横揺れに危険を感じて,考える間もなく事務所より飛び出したその直後,立っていられない程の猛烈な横揺れに襲われました。改築工事中の事務所の足場はギシギシと音を立てて今にも崩れそうな状況であり,周辺の送電線が大きく波打つのを目の当たりにしました。長い長い揺れが収まってわれに返ると,そこには何事もなかったかのように舞い降りる小雪と,天井が崩れ落ち,停電した事務所を呆然と眺めながら,これはただごとではないことが起こってしまったと感じていました。

志津川変電所付近の送電線調査に赴いたのは,地震発生から3日経過した3月14日でした。海沿いの国道45号線は不通であったため,国道398号線を使って登米から志津川変電所へ向かいましたが,峠を抜け,跨線橋を越えた目前には私の記憶にある美しい志津川の港町は見る影もなく,道路以外は全てががれきで埋もれている現実でした。被災された方が憔悴しきった様子でどこへ向かうともなく歩く姿を見て,いつかテレビで見た戦火により焼け焦げた町を想像したことが今でも深く心に残っています。

自衛隊車両が往来する中,そこにあったはずの志津川変電所の場所に到着し,調査を開始しようとした直後,けたたましいサイレンとともに「大津波警報発令」とのアナウンスが鳴り響いたときは,血の気が一気に引き,上司に促されるまま車両に乗り込み,今来た道を山手方向に慌しく逃げました。津波が来ることはありませんでしたが,津波の恐怖を肌で感じた瞬間でした。

石巻技術センター管内では,鉄塔倒壊が13基あり,その大部分が満潮時には冠水し,余震により津波注意報が発令されると退避しなければならない箇所でした。そのような身の危険を感じる場所で,昼夜を問わず巡視・点検・仮鉄柱建設などの復旧作業に当たった送電課員や工事会社さんの「ラインマン」としての『一日でも早く復旧するんだ』という熱い思い,使命感に突き動かされた勇気ある復旧活動に心から感銘を受けました。

想定を超える事態に対応する決断力

送電線を保守する上で,「最悪の事態を想定し,さまざまな備えをしなければならない」という先輩の教えにより,「最悪の事態を想定した備え」を準備してきたつもりでしたが,その「最悪」の想定をはるかに超える事態が発生する可能性がゼロではないことを,今回,身をもって知ることとなりました。

私が今回の震災対応の中でずっと考えていたことは,「最善と思われる判断を早期に行う決断力」と同時に,「最善は何かと考えを巡らすあまり,決断が遅れないこと」でした。工事会社の混乱やその後の復旧計画に影響を及ぼす結果となっては絶対にいけないことを常に意識して対応していました。

日常の業務を遂行する上では,各種基準・マニュアルなどに沿った業務運営を求められ,それらを遵守していれば問題なく業務が進む状況にあります。しかし,今回の大震災では,基準やマニュアルなどでは対応しきれない場面のほうが数多くありました。その判断を求められたとき,自信を持って決断を下せるかどうかは,基準などの文面のみを記憶していただけなのか,その目的や背景まで理解していたかで大きく分かれるということを学びました。

現在,送電課員および工事会社の皆さんの努力によってひとまず復旧にこぎつけたものの,仮設備の箇所が数多くあります。仮設備でも安全に電気を送れるよう努めていますが,本復旧設備の完成を一日でも早く成し遂げ,より安全に,より安定した電気を地域の皆さまにお届けするために,微力ながら一人の「ラインマン」として復興を支えていきたいと思っています。

[頑張っています! 石巻技術センター]

早期の本格復旧に向けて,所内が一丸となった取り組みが進められています。















1 送電・変電・用地が一体となって復旧を進めた重吉変電所
2 「頑張ろう石巻!」が大きく掲げられている
3 チームワークが抜群の制御所
4 鉄塔が本復旧し,電線のたるみを検査
5 発変電課の様子
コミュニケーションが活発に取られている
6 制御所の様子
系統の安定に向けて厳しい監視を行っている
7 送電課の様子
設備の本復旧に向けて設計が進められている



ふるさと復興応援団!

Vol.2.

ふるさとの復興を応援するこのコーナー。
第2回は,小さな復興プロジェクトの「onagawa fish」です。

小さな復興プロジェクト onagawa fish



onagawa fishは経済的自立支援を目的に始められました。

被災者に,ものづくりをすることによる収入の確保だけでなく,家や仕事を失った日常の時間の有効活用や被災による心的ストレスの軽減を促します。

直接的な奉仕や資金の支援ではない,自立するための支援。被災地で普通の生活を取り戻すため,自立のために立ち上がっていくこと,そしてそれらを支援していくことが,復興への大きな原動力となるのではないでしょうか。

onagawa fishの販売代金1,200円(税込み)のうち,材料費や消耗品などの経費を差し引いた金額が制作費として届けられます。

一人一人ができる復興支援,してみませんか。





←グリーンプラザ(仙台)で開催された復興支援イベント「明日に向かって,ともに前へ」でも販売されました

購入方法

インターネット

http://ameblo.jp/small-rebuild-project/

小さな復興プロジェクト 検索

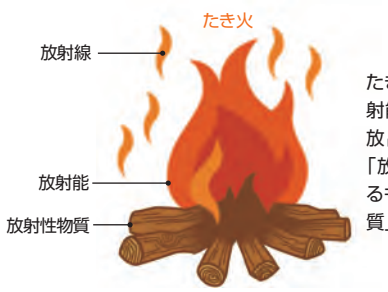
知っておきたい 放射線の話

福島第一原子力発電所の事故に伴い,放射線に対する社会的な不安が大きくなっています。BRIDGEでは,放射線に関する基本的なことについて,当社社員として知っておきたい放射線に関する基礎知識を解説していきます。

Q 「放射線」「放射能」「放射性物質」はどう違うのですか?

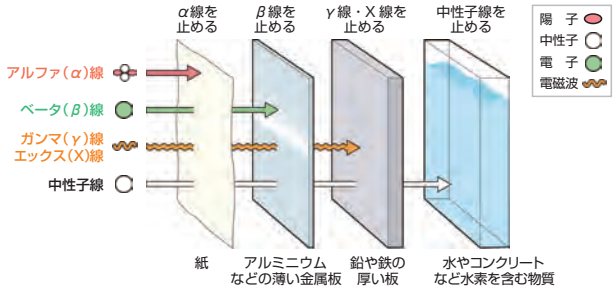
A 「放射線」は物質を透過する力を持ったもので,アルファ(α)線,ベータ(β)線,ガンマ(γ)線,中性子線などがあります。放射線を出す能力を「放射能」といい,放射線を出す能力を持つ物質を「放射性物質」といいます。
たき火に例えると,たき火の「火」が放射能に当たり,そこから出る「熱」が放射線で,「たき木」が放射性物質になります。

■たき火のイメージ図



たき火の「火」が「放射能」で,たき火から放出される「熱」が「放射線」,燃えているものが「放射性物質」です。

■放射線の種類と透過力



Q ベクレルやシーベルトという単位を耳にしますが,どういったものなのですか?

A 放射線による人体への影響度合いを表す単位を「シーベルト(Sv)」,放射性物質が放射線を出す能力を表す単位を「ベクレル(Bq)」といいます。たき火をイメージすると,炎の大きさが「ベクレル」,たき火の熱によって人体が受けた影響が「シーベルト」ということになります。
現在,食品に含まれる放射性物質の暫定規制値が設定されており,暫定規制値を超える食品は市場に流通しないようになっています。牛肉などはセシウム137が「500ベクレル/kg」と設定されていますが,セシウム137が500ベクレル/kg検出された牛肉300gを10日間食べ続けた場合,シーベルトに換算するとどうなるのでしょうか?

■放射性物質を含んだ食品を摂取した場合の放射線量の計算方法

500ベクレル／kgの放射性セシウム137が検出された「牛肉300g」を10日間食べ続けた場合

- **500ベクレル×300g／1,000g×10日=1,500ベクレル**※1
- **0.000013**※2**×1,500ベクレル=0.0195ミリシーベルト**

※1…牛肉を摂取することで体内に取り込んだ放射性物質は汗や尿,便などの排せつにより体外に出されます。放射性セシウムの場合は約90日で取り込んだ量が半分(生物学的半減期)になります。

※2…実効線量係数に放射能(ベクレル)を掛けることで、放射線量を算出します。
【実効線量係数】(ミリシーベルト/ベクレル)
・放射性セシウム137　0.000013　・放射性セシウム134　0.000019
・放射性ヨウ素131　0.000016

このように放射性物質ごとの実効線量係数を掛けることで,放射線による人体への影響度合を表す「シーベルト」を求めることができます。
放射線に関する情報は,「社員へのお知らせ」でもご覧いただけます。

社長記者会見が行われる

電力需給実績と発電所の復旧状況、風力発電導入拡大、「原子力発電に係るシンポジウム等についての第三者調査委員会」からの最終報告書の公表について

9月30日、定例社長記者会見が行われました。

海輪社長は、節電へのご協力に対しあらためて感謝を伝えた上で、今夏の電力需給実績と火力発電所などの復旧状況について説明しました（本誌20ページ参照）。

今冬の供給力については、「1300万kWを超える程度確保できる見通しとなっているが、冬の電力需給については厳しいことが想定される。今後も供給力の確保に全力で取り組むとともに、需要抑制策の検討を行っていきたい」と話しました。

さらに、風力発電導入拡大に向けた実証試験について、「東京電力と協議した結果、連系線の活用と風力発電の出力抑制を行うことにより、平成23、24年度の2カ年にそれぞれ20万kWの募集を行うこととした。今後もさまざまな課題をクリアしながら、平成32年度ごろまでに東北地域全体で200万kWの連系を目指し、引き続き導入拡大に取り組んでいく」と話しました（本誌21、22ページ参照）。


会見を行う海輪社長

■「原子力発電に係るシンポジウム等についての第三者調査委員会」からの最終報告書の公表について

引き続き行われた会見では、国が主催した原子力発電に係るシンポジウム等への国の関与について、経済産業省が設置した第三者調査委員会の最終報告書が公表されたことを受け、当社の調査結果について次のとおり説明しました。

●当社が、社員、関係会社および取引会社に対して、参加を強制した事実はなかったものの、説明会の開催周知および参加要請を行った事実が確認された

●当社が、社員、関係会社および取引会社に対して、発言を要請した事実はなかったものの、原子力発電に理解がある地域の方々に対し、ご本人の同意を得た上で、自身の考えに基づく質問や意見などの発言をお願いした事実が確認された

●当社が説明会にオブザーバーとして参加することになっていたことから、国と事前に打ち合わせを行ったことが確認された

これらの調査結果を受け、海輪社長は「地域の方々への発言要請や、国と事前に打ち合わせを実施するなどの行為が、地域の皆さまが国の説明を受け、自由に質疑応答を行い、理解を深めるという説明会の開催趣旨などを踏まえると、公平性や中立性を歪めかねない点があったと反省している。当社は、今回の調査結果や第三者調査委員会の報告内容を真摯に受け止め、企業活動全般にわたって、社会からの視点を十分に踏まえた業務遂行がなされるよう努めていく」と話しました。

定額電灯および公衆街路灯Aにおいて新たな料金区分を設定

LEDなどの高効率かつ小容量の照明機器に対応

当社は定額電灯および公衆[※1][※2]街路灯Aの電気料金において新たな料金区分を設定することとし、電気事業法第21条第1項ただし書きの規定に基づき、経済産業大臣の認可を得て「供給約款等以外の供給条件」を制定しました（10月3日認可）。

この「供給約款等以外の供給条件」においては、省エネルギー・省CO_2の観点から、LEDなど高効率かつ小容量の照明機器の開発・普及が見込まれることを踏まえ、現在「20Wまでの1灯」としている最小料金区分を見直し、「10Wまでの1灯」として新たな料金区分および単価を設定しています。

具体的な内容は、次のとおりです。

■適用対象

定額電灯または公衆街路灯Aのご契約により、入力容量が10W以下の照明機器をご使用になられるお客さま

■適用開始日

平成23年12月1日

■適用方法

現在の契約において、新たな料金区分の適用対象となるお客さまに対し、当社からダイレクトメールにて、新たな料金区分の適用方法をお知らせ

※1　定額電灯…照明や通信装置などの電気機器（400VA以下）を対象とした契約。

※2　公衆街路灯A…公道、橋、公園などの照明（1kVA未満）を対象とした契約。

■新たな料金区分および単価

入力容量による料金区分	電灯料金単価（月額）	
	定額電灯	公衆街路灯A
10Wまでの1灯につき	61円01銭	54円18銭
10Wを超え20Wまでの1灯につき	103円11銭	92円61銭
20Wを超え40Wまでの1灯につき	187円32銭	169円47銭
40Wを超え60Wまでの1灯につき	271円53銭	246円33銭
60Wを超え100Wまでの1灯につき	439円95銭	400円05銭
100Wを超える1灯につき100Wまでごとに	439円95銭	400円05銭

＊□部分は新たな料金区分および単価を示し，赤字部分は料金区分の見直し（下限の追加規定）を示します。（その他の個所に変更はありません。）

＊照明機器に係わる電気料金は，上記電灯料金のほか，燃料費調整の基準単価および太陽光発電促進付加金についても，同様に「10Wまでの1灯」として新たな料金区分および単価を設定しています。

＊需要家料金（1契約につき，定額），小型機器に関わる料金などに変更はありません。

第125・126回永年勤続者感謝状贈呈式を開催

9月28日、当社は仙台市内で「第125・126回永年勤続者感謝状贈呈式」を開催しました。第125回は今年の3月に予定していましたが、東日本大震災の影響により延期され、第126回と合同での開催となりました。今回は、昨年9月から今年8月末までの間に転籍された方々と、今年度定年を迎えられる方々の合計214人が対象となりました。

海輪社長は、「皆さんの尽力により、当社のみならず東北地域の発展に貢献いただいた。併せて、これまで皆さまを心身ともに支えてこられたご家族の皆さまにも、心より御礼申しあげる」と感謝の意を表しました。また、「現在、当社は東日本大震災の影響により、創立以来の危機を迎えている。①電力需要の大幅な落ち込み、②地震・津波による当社設備の甚大な被害、③福島第一原子力発電所の事故による影響、④女川・東通両原子力発電所の運転停止の長期化、⑤新潟・福島豪雨による水力発電所の被災停止、と現在の経営環境は『三重苦ならぬ五重苦』である」と説明した上で、「『朝の来ない夜はない』『前を向いて努力し続ければ、必ず道は開ける』と信じ、この難局を乗り切っていきたい。今後は、違うかたちで東北電力に対してお力添えをいただきたい」と話しました。





海輪社長に謝辞を述べる佐藤さん(上)，海輪社長より代表者に感謝状と記念品が手渡された(下)

これに対し、永年勤続者を代表して佐藤和雄さんが、「東北電力は数多くの困難を克服しつつ、飛躍的に発展してきた。このような中、電気事業の発展と共に地域社会の繁栄に貢献できたことは大きな喜びであり、誇りである」と述べました。その後、自身の会社人生を振り返りながら、「人間尊重を基本理念として公益事業を営む東北電力が、人間が持つべき基軸が何かということを教えてくれた。東北電力企業グループが、震災の被害を受けたこの東北の地で、地域の復興に貢献し、地域と共に歴史を作っていくことを信じる」と話した上で、「新たな道に踏み出すことになるが、それぞれの進む分野、地域社会において、私どもが東北電力の懸け橋となり、これからもその絆を強めていきたい」と謝辞を述べました。

東新潟火力発電所3号系列のガスタービン燃焼器が「未来技術遺産」へ登録

東新潟火力発電所3号系列において、昭和59年の営業運転開始より採用していたガスタービンの「1100℃級予混合低NO_x燃焼器」が、国立科学博物館の「重要科学技術史資料（通称・未来技術遺産）」に登録されました。9月27日、東京の国立科学博物館で登録証の授与式が行われ、東新潟火力発電所より青木所長が出席しました。



パネル展示会場にて，記念盾を持つ青木所長(右)と登録証を持つ東新潟火力の竹石副長(左)

未来技術遺産とは、国立科学博物館が「科学技術の発展史上重要な成果を示し、次世代に継承していく上で重要な意義を持つ科学技術史資料」の保存と活用を図るため、平成20年度から登録を実施しているものです。

本燃焼器は、世界に先駆けて実用化に成功した予混合燃焼方式※を用いた燃焼器で、それまで主流であった水や蒸気を噴射する方式とは異なり、画期的な低NO_x化を実現しました。事業用の大型ガスタービンの低NO_x対策には、現在もこの予混合燃焼方式が必須技術であり、「環境保全に寄与した世界初の予混合燃焼器の実機が残されており貴重である」と評価され、登録に至ったものです。

今回の登録は、本技術に携わる現場の若手技術者に対して大きな励みになるとともに、モチベーションの向上につながることが期待されます。

※予混合燃焼方式…燃料と燃焼用空気を予め混合した状態で燃焼させる燃焼方式。

電力流通本部「気づき顕彰」の発表・授与式を開催

9月29日、平成22年度電力流通本部「気づき顕彰」の発表・授与式が本店で開催されました。

気づき顕彰は、「気づく」「話す」「直す」取り組みの最初の一歩である「気づき」に特化し、広く案件を吸い上げ水平展開するとともに、顕著な「気づき」を顕彰することで、一層の業務品質の向上と「気づく」風土の定着化を目的とし、一昨年度より本部独自の取り組みとして実施しています。平成22年度は、電力システム部門、土木建築部門、情報通信部門および用地部門の各職場より220件もの「気づき」が寄せられ、このうち、業務の品質向上や適正化、労働災害防止、設備不具合への対応などをテーマとした10件の顕彰案件の発表が行われました。





あいさつする森下常務（上），発表会の様子（下）

発表会では、森下常務が「組織そして職場が強くなるためにも、気づいたことを話し、前例にとらわれない発想と創意工夫により改善する地道な努力が、今、さらに必要になっている。今回の顕彰を他の模範として、高い目標で自己研鑽に励んでいただく一方で、職場での報・連・相を基本とするコミュニケーションにより、改善意欲を盛り上げていただきたい」とあいさつしました。

当日は、本店および各事業所から約50人の関係者が出席し、各発表の後、出席者による活発な質疑、意見交換が行われました。また、発表会は昨年同様、テレビ会議システムにより関係事業所に同時中継され、多数の関係者が発表内容や発表会の雰囲気を共有しました。

マレーシア・ペトロナス社のアヌアー上級副社長が当社経営層を表敬訪問



海輪社長は，安定的なLNG供給に対して感謝の言葉を伝えた

9月13日、当社がLNGを購入しているマレーシアLNG社の親会社であるペトロナス社のダトー・アヌアー・アーマッド上級副社長が、東日本大震災に伴う当社への見舞いのため本店を訪れ、海輪社長、安倍副社長、加藤副社長と懇談しました。

海輪社長は冒頭、これまでのマレーシアからの安定的なLNG供給に対する感謝の言葉を伝えた上で、「震災以降、太平洋側の火力発電所や原子力発電所が現在も停止している。さらに、7月に発生した新潟・福島豪雨により水力発電所も大きな被害を受けたことから、現在、LNG火力発電所は当社にとって非常に重要な電源となっている。今後、冬場に向けて厳しい電力需給状況が続くと予想されているが、引き続き安定的かつ弾力的なLNG供給をお願いしたい」と述べました。

これに対して、アヌアー上級副社長は震災により被災された方々へお見舞いの言葉を述べた後、「東北電力とはこれまで長年にわたり信頼関係を構築してきており、今後も東北電力に対してできる限りの協力をしていきたい」と述べました。

現在、当社におけるマレーシアからのLNG調達数量は年間約108万トンとなっていますが、震災後のLNG消費量増加に対応するため、今年度はこれまでに約18万トンの追加供給をマレーシアより受けることとしています。

津軽発電所建設所開所式が行われる

9月1日、津軽発電所建設所の開所式が行われました。津軽発電所は、国土交通省が施工する特定多目的ダムである津軽ダムに当社が発電参加する最大出力8500kWの水力発電所で、平成28年度の運転開始を目指し、今年7月に建設所が発足しました。

開所式には来賓として西目屋村長、国土交通省東北地方整備局津軽ダム工事事務所長など地元関係者ならびに増子青森支店長、笹川土木建築部長など当社関係者が出席し、建設所の発足および今後の本格着工を控え、工事の安全と円滑な進捗を祈念しました。



西目屋村の関村長（左から２人目）をはじめ多くの来賓が出席し，開所式が行われた

復興支援イベント「明日に向かって、ともに前へ」をグリーンプラザ（仙台）で開催





手書きで発行された石巻日日新聞の前には多くの来場者が足を止め，見入っていた（上），会場では復興支援グッズも販売され，被災者の支援に充てられた（下）

10月4日、グリーンプラザ（仙台）で復興支援イベント「明日に向かって、ともに前へ」が開催されました。

このイベントは、被災地で支援に当たるボランティアの方々から見た震災の復旧・復興の状況を紹介するとともに、被災地のために何ができるのかを考えることを目的としています。

がれきは撤去され、被災者の方々は避難所から仮設住宅へと移り、復旧も一段落し、復興の話題も聞こえてきます。しかし、がれきが撤去されても、そこにはむなしさだけが残り、震災の痛みが癒えず、立ち上がれない人は少なくありません。そこで、まだまだ必要とされているボランティアの募集情報やボランティアの現場での仕事内容、体験談などをビデオやパネルで紹介し、被災地支援のきっかけ作りの場としています。

会場では多くの来場者が、手書きで発行された石巻日日新聞や、自ら現場のボランティア活動を行っていた仙台在住のミュージシャン「モンキー・マジック」のメッセージビデオに見入っていました。

このイベントは、10月22日まで開催される予定です。

東北経済連合会が政府・関係機関に対して「東日本大震災からの復興に向けた第2次要望」を実施





枝野経済産業大臣に手渡す高橋会長（左），平野東日本大震災復興対策担当大臣をはじめ数多くの関係者に手渡した（右）

9月20日、（社）東北経済連合会（会長・高橋当社会長）は、（財）東北活性化研究センターと共同で政府・関係機関に対して、東日本大震災からの復興に向けた要望活動を実施しました。これは、大震災から半年がたち、産業の復興に関していくつかの課題が見えてきたことから、このたびの要望を行ったものです。

この「東日本大震災からの復興に向けた第2次要望」では、福島第一原子力発電所の事故からの福島の復興・再生、ならびに産業復興に向けた震災復興特区・ファンドの創設を要望しています。

東日本大震災からの復興に向けた第2次要望（要旨）

Ⅰ. 国が前面に立った福島県の地域再生

国が，あらゆる施策，資源を動員して，福島第一原子力発電所の事故を早期に収束し，福島の地域再生を図るよう要望する

○国主導による事故の収束

・今後も，国の責任のもとで事故原因の究明や事故対応の妥当性の調査をはじめ，事故の収束に全力で取り組むこと

○迅速な除染計画の立案・実行

・迅速な除染計画の立案・実行や，汚染がれきや汚染土壌などの恒久的安全管理体制を整備すること

○風評被害の払拭

・風評被害を払拭するため，継続的な放射線量の測定と，その被ばくと健康との関係について分析を行い，国際的に信頼し得る基準を策定するとともに，国民に丁寧に説明していくこと

○他地域に比して手厚い特区制度の実施

・福島県の現下の厳しい状況に鑑み，他地域に比して特段の支援措置を講ずる特区制度を創設すること

Ⅱ. 震災復興特区・ファンドの創設

東北6県と新潟県全体を対象に，既存の枠にとらわれない大胆な規制緩和や，税制・財政・金融措置を講ずる震災復興特区と震災復興ファンドを創設することを要望する

○震災復興特区制度の創設

・既存制度に比べ，税制・財政・金融面で大胆な優遇措置を伴った特区を創設すること

○東北産業復興に向けたファンドの創設

・被災した中小企業の資金ニーズに応えるため，ファンド会社を創設すること

第16回三経連経済懇談会が開催される

9月15日、(社)東北経済連合会(会長・高橋当社会長)は、北海道経済連合会(会長・近藤北海道電力会長)、北陸経済連合会(会長・永原北陸電力会長)と共に、仙台市内で「大震災からの復興と新たな地域経済の創造」を基本テーマに、第16回三経連経済懇談会を開催しました。

高橋東経連会長はあいさつの中で、これまでの復興支援に対し御礼を伝えた上で「大震災により、東北は甚大な被害を受け、住民生活の再建や地域経済の再生への道のりは険しいものとなっている。東経連としても、これまで政府などに対してさまざまな要望活動を行ってきたが、東北の復興が日本の元気につながるよう、地域経済界として全力で取り組んでいく」と決意を述べました。





懇談会の様子(上)，高橋会長は復興に向けて強い決意を述べた(下)

その後、北海道経済連合会および北陸経済連合会の両会長があいさつし、大震災に対するお見舞いの言葉を述べるとともに、両経済連合会の最近の活動状況などについて報告がありました。

懇談会では、「大震災からの復興と災害に強い地域づくり」と「将来の希望となる新たな産業の創造」の2点をテーマに、それぞれの経済連合会から取り組みを発表し、活発な意見交換が行われました。このうち、東経連からは、東北の新規事業の成長を支援する「東経連ビジネスセンター」の活動や、国内で展開してきたBUY東北運動の海外展開、「国際リニアコライダー」の誘致活動などについて紹介しました。

懇談会の最後には、「震災被災地域の早期復興に向けた支援策の展開」「国内外に対する観光戦略の推進」「産業・生活に不可欠な安定的かつ経済的なエネルギーの維持確保」などについて決議し、今後、三経連が共同で政府などに実現を働き掛けていくことを確認しました。

「東経連フォーラムin新潟」開催

9月1日、(社)東北経済連合会(会長・高橋当社会長)は新潟市内で(社)新潟県商工会議所連合会ならびに(社)新潟県経営者協会と共に、「東経連フォーラムin新潟」を開催しました。





フォーラム冒頭にあいさつする高橋会長(上)，講演する山口教授(下)

冒頭のあいさつの中で高橋東経連会長は、「今回の大震災では、新潟港をはじめとする日本海側の港湾から高速道路を利用して、太平洋側にガソリンや物資を運ぶことができた。これにより、日本海側と太平洋側がお互いに助け合うというリダンダンシーの重要性が浮き彫りとなった。日本海沿岸東北自動車道をはじめ東北全体の高速道路を中心とするインフラ整備を、さらにしっかりと進めなければならないことが証明されたものと考えている」と述べ、災害に強いインフラ整備の早期実施について、引き続き政府などに要望していきたいと決意を述べました。

続いて、山口義行立教大学経済学部教授が「『革新と創造』で国難を乗り越えよ!~今経営者がなすべきこと~」と題し、震災後の低迷している日本経済を底上げするために、経営者がなすべきことなどについて講演を行いました。

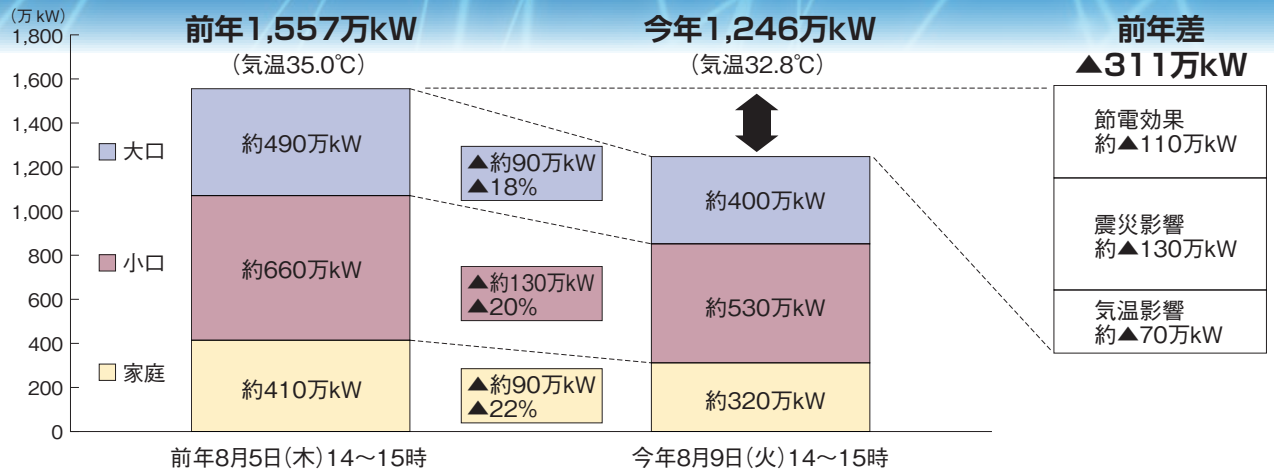
今夏の需給状況

今夏の当社の需給状況を振り返ると,東日本大震災による被害に加え,新潟・福島豪雨で只見川・阿賀野川水系の水力発電を中心に甚大な被害を受けたことなどから,8月上旬には厳しい局面が続きました。

こうした中,関係自治体や業界団体などにも節電への働き掛けをいただきながら,電気事業法第27条に基づく電力の使用制限の対象となった大口のお客さまをはじめ,当社管内の多くのお客さまには最大限の節電やピークシフトにご協力いただきました。さらには,東京電力管内のお客さまの節電効果により,当社へ電力融通をいただいたことで,計画停電の実施を回避することができました。

今夏の最大電力は,東日本大震災の影響に加え,お客さまから節電にご協力いただいたことや気温影響などから,前年に比べ大幅に減少しました。需要家別では大口,小口,家庭ともに20%程度の減少がみられたものと試算しています。

減少要因別では節電効果が約110万kW,震災影響が約130万kW,気温影響が約70万kWと試算しています。



■今冬に向けて

当社では,引き続き,発電設備の復旧や緊急電源の設置など供給力対策に全力で取り組むとともに,効果的な需要抑制策についても検討を進めていきます。

しかし,今冬についても当社の需給見通しに余裕のある状況ではないことから,お客さまには引き続き,可能な範囲での自主的な節電へのご理解とご協力をお願いしていきます。

★:緊急設置電源

能代火力発電所(秋田県能代市)

運転状況	号機	出力	燃料
運転中	1号機	60万kW	石炭
運転中	2号機	60万kW	石炭
★ 平成23年12月運転開始予定	NAS電池	8万kWの半量	–
平成24年1月運転開始予定		8万kWの半量	

秋田火力発電所(秋田県秋田市)

運転状況	号機	出力	燃料
運転中	2号機	35万kW	石油
運転中	3号機	35万kW	石油
運転中	4号機	60万kW	石油
★ 平成24年7月運転開始予定	5号機	33.3万kW	石油

酒田共同火力発電所(山形県酒田市)

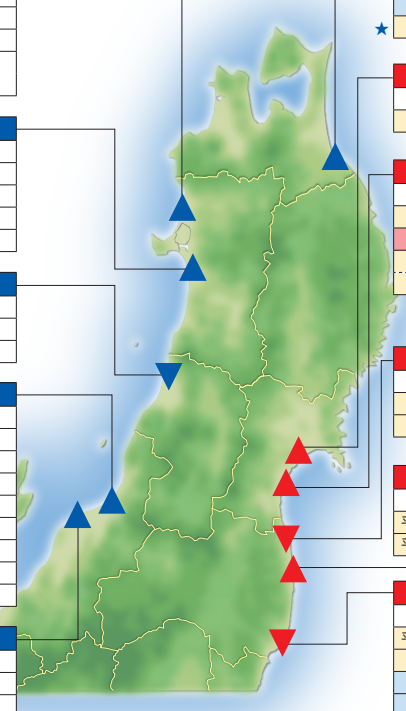
運転状況	号機	出力	燃料
運転中	1号機	35万kW(全量当社受電)	石炭
運転中	2号機	35万kW(全量当社受電)	石炭

東新潟火力発電所(新潟県北蒲原郡聖籠町)

運転状況	号機	出力	燃料
運転中	1号機	60万kW	LNG
運転中	2号機	60万kW	LNG
運転中	3号系列	121万kW	LNG
運転中	4号系列	170万kW	LNG
★ 平成24年7月運転開始予定	5号機	33.9万kW	LNG
運転中	港1号機	35万kW	LNG
運転中	港2号機	35万kW	LNG
★ 運転中(8月26日運転開始)	港3号系列	5.38万kW	石油

新潟火力発電所(新潟県新潟市)

運転状況	号機	出力	燃料
運転中	4号機	25万kW	LNG
運転中	5号系列	10.9万kW	LNG
★ 平成24年1月運転開始予定	6号機	3.4万kW	天然ガス



八戸火力発電所(青森県八戸市)

運転状況	号機	出力	燃料
運転中	3号機	25万kW	石油
★ 平成24年7月運転開始予定	5号機	27.4万kW	石油

仙台火力発電所(宮城県宮城郡七ヶ浜町)

運転状況	号機	出力	燃料
平成24年3月運転開始予定	4号機	44.6万kW	LNG

新仙台火力発電所(宮城県仙台市)

運転状況	号機	出力	燃料
平成23年12月復旧見込み	1号機	35万kW	石油
平成23年10月末廃止予定	2号機	60万kW	LNG
平成28年7月運転開始予定	3号系列	98万kWの半量	LNG
平成29年7月運転開始予定		98万kWの半量	

(新仙台火力発電所リプレース計画実施)

相馬共同火力 新地発電所(福島県相馬郡新地町)

運転状況	号機	出力	燃料
平成24年1月復旧見込み	1号機	100万kW(半量当社受電)	石炭
平成23年12月復旧見込み	2号機	100万kW(半量当社受電)	石炭

原町火力発電所(福島県南相馬市)

運転状況	号機	出力	燃料
平成25年夏までの復旧見込み	1号機	100万kW	石炭
平成25年夏までの復旧見込み	2号機	100万kW	石炭

常磐共同火力 勿来発電所(福島県いわき市)

運転状況	号機	出力	燃料
平成24年夏までの復旧見込み	6号機※	17.5万kW(半量当社受電)	石油
平成23年12月復旧見込み	7号機	25万kW(半量当社受電)	石炭
運転中	8号機	60万kW(半量当社受電)	石炭
運転中	9号機	60万kW(半量当社受電)	石炭

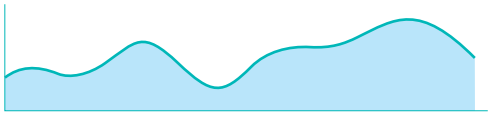
※平成22年1月から長期計画停止中

風力発電導入拡大に向けた実証試験に関するQ&A

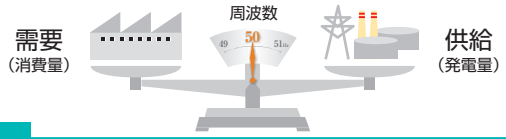
風力発電の導入拡大に,なぜ火力が関係あるの?

まず前提となる条件は?… もちろん安定供給!

風力は風の強さによって出力変動する



需給バランスを一致

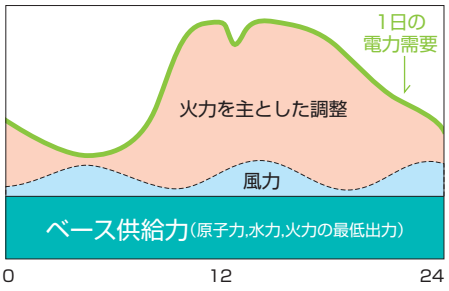


つまり

風力を電力系統に連系した状況で需給バランスを一致させるためには,風力の出力変動を吸収できる調整力を持つ火力などの電源が必要となります。

風力の出力が小さいときは火力の出力を増やし,風力の出力が大きくなるときは,火力の出力を減らして,需要と供給のバランスを取っています。

火力は,需要の変化に合わせて出力を増減させるだけでなく,風力の出力変動を吸収する役割も担っているのです。



Q1 そもそも,なぜ風力発電の連系量に制限があるの?

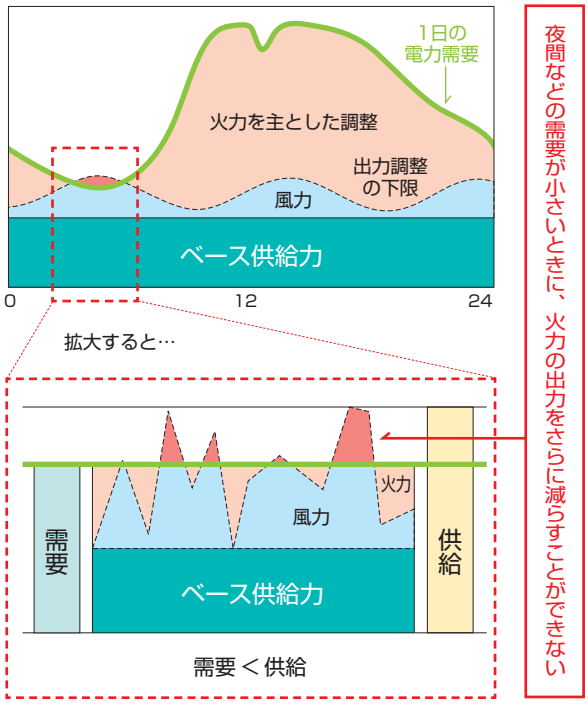
風力の導入を拡大しようとするとき,実は,風力の出力が小さいときよりも,大きいときが問題となります。

春や秋の夜間など需要が小さいときに,火力は最低出力近くまで出力を絞って運転しています。このとき風力の出力が急増しても,さらに火力の出力を減らすことができないため,供給が需要を上回ってしまいます。

そのため

ポイント

風力の連系可能量は,風力の出力変動を火力の調整力でどれだけ吸収できるかが重要なポイントの一つとなります。



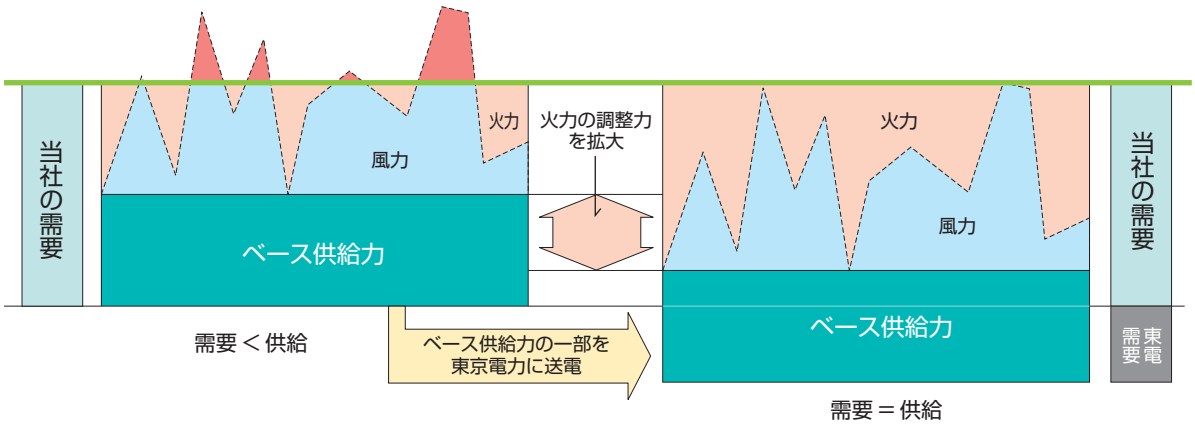
Q2 ベース供給力の出力を調整すればいいのではないの?

供給力は,①常にほぼ一定の出力で運転を行うベース供給力,②電力需要の変動に対応して稼働し,主としてピーク時に必要な供給を行うピーク供給力,③両者の中間的な役割を持つミドル供給力の三つのタイプに分類されます。

ベース供給力は,常にほぼ一定の出力で運転する必要があるため,短時間での出力調整をすることはできません。そのため,風力の導入を拡大するためには,出力の調整に優れた火力の出力を増やし,調整力を拡大する必要があるのです。

東京電力との連系線を活用して,火力を焚き増し?
～ 風力発電導入拡大実証試験の仕組み ～

今回の風力の導入拡大に向けた実証試験は,当社と東京電力を結ぶ送電線(連系線)を活用し,火力の調整力を拡大しようとするものです。

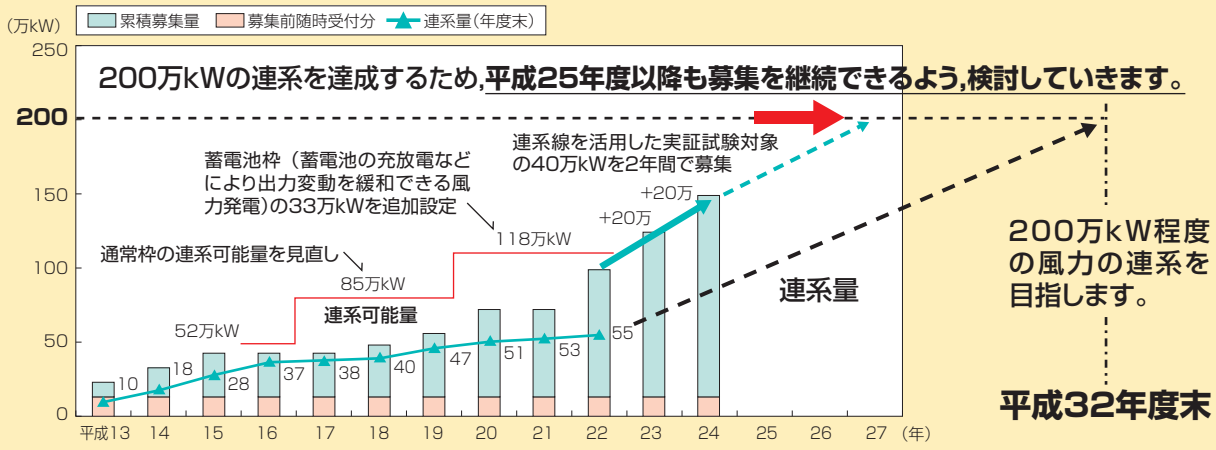


調整力は,火力の出力を増やすことにより拡大できますが,それに相当する需要の増加がなければ,需給バランスを保つことができません。

当社と東京電力を結ぶ送電線(連系線)を活用し,当社の調整力に余裕がない時間帯に東京電力側に送電することで,当社火力の出力を増やすことができます。火力の出力を増やすことで調整力が拡大し,風力の導入拡大につながるのです。

風力発電の連系量拡大に向けて取り組んでいきます!!

当社では,風力に対する当社への期待が大きいことを踏まえ,平成32年度(2020年度)ごろまでに**200万kW**の連系を目指すこととし,この目標に向け平成25年度以降も,連系量拡大に向け取り組んでいきます。



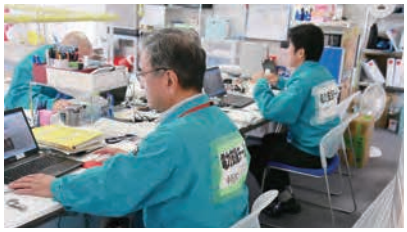
福島支援本部「電力支援チーム」の活動状況



福島第一原子力発電所の事故対応支援に、電力業界を挙げて活動しています。この「電力支援チーム」は沖縄電力(株)を除く電力9社、日本原子力発電(株)、日本原燃(株)、電源開発(株)の社員合わせて230人体制で、福島県内で環境放射能モニタリングやお客さまのスクリーニングなどの作業に携わっています。当社では、3月19日より本店原子力品質保証室が窓口となり、1チーム20人が6泊7日の日程で福島県内各地で活動を行っています。

福島第一原子力発電所の事故に伴う支援活動地







各電力会社が集まり,郡山市八山田にある事務所を拠点に活動を行っています。

[電力支援チームの活動内容]

県民スクリーニング検査

いわき市保健所や南相馬市相双保健所などにおいて,毎日,住民の皆さまや車両などの放射能スクリーニング検査を実施しています。





環境放射能モニタリング

福島県内全般において,福島第一原子力発電所から20km圏外については,毎日1回·6地点程度で,20km圏内については,1週間に1回·50地点程度で環境放射能モニタリングを実施しています。

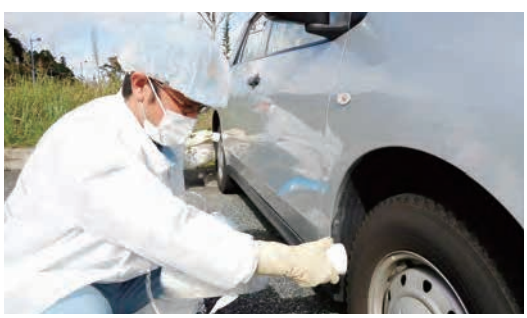




車両スクリーニング

住民の方が帰宅·運搬などで使用した車両について汚染がないか確認を行います。「問題ありませんでした」と声を掛けると,皆さんホッとした表情をされ,「ありがとうございました。お疲れさまです」と声を掛けてくださる方もいらっしゃいました。





女川原子力発電所
総務部総務グループ調査役
当社支援チームリーダー

小澤 郁夫さん



私は今回で支援活動は4回目となります。主な活動は，一時帰宅された方のスクリーニングや20km圏内より持ち出した荷物のスクリーニング，その他に当社の支援活動全体の統括を行っています。

現在，放射線に関してさまざまな情報がある中で，「大丈夫ですよ」「心配いりませんよ」と声を掛けています。しかし，実際の受け止め方はそれぞれ，心配の程度も違います。100%の安心を得るというのは，この現状では難しいかもしれませんが，少しでも安心していただけるように心掛けています。

過去の支援活動の中で印象に残っていることは，体育館でスクリーニングを行ったときのことです。私たちの作業着には，背中に「東北電力」と書かれています。避難されている方が私たちのそばに来て，自分たちの思いや不安を東北電力である私たちに訴え掛けてこられました。訴えに対して，相づちを打つことしかできなかったのですが，そのときの言葉が今でも心に残っています。

私は長年，原子力に携わってきました。東日本大震災を経て，「安全なくして原子力は成立しない。それが不可抗力であろうとなかろうと，どんなことがあろうとも安全でなければ原子力は信頼されない」ということをあらためて実感しています。



女川原子力発電所
保全部電気グループ

丹野 宏道さん

私は今回で2回目となります。1回目は一時帰宅された方のスクリーニング，一時帰宅された際に持ち出された車両のスクリーニングを行いました。今回は20km圏外の環境モニタリングも行います。

福島第一原子力発電所は見学に訪れたこともあり，そのような原子力発電所に事故が発生し，悲しい気持ちで福島を訪れました。実際に避難されている方の大変な状況を目の当たりにし，言葉を失ってしまいました。一時帰宅される方のスクリーニングなどで避難されている方と接する機会も多いのですが，事務的ではなく親身になって接することを心掛けています。

3月11日，私は女川原子力発電所の警備課に所属していたのですが，発電所の体育館に避難された方の対応を行っていました。そのときに感じたことですが，すべきことは何なのか，本質を考え，確実に実施しなければならないと思いました。

今後，避難されている皆さまが1日でも早くご自宅に帰ることができるように，微力ながら貢献していきたいと思います。

浪江・小高原子力準備本部
課長

佐藤 徳夫さん



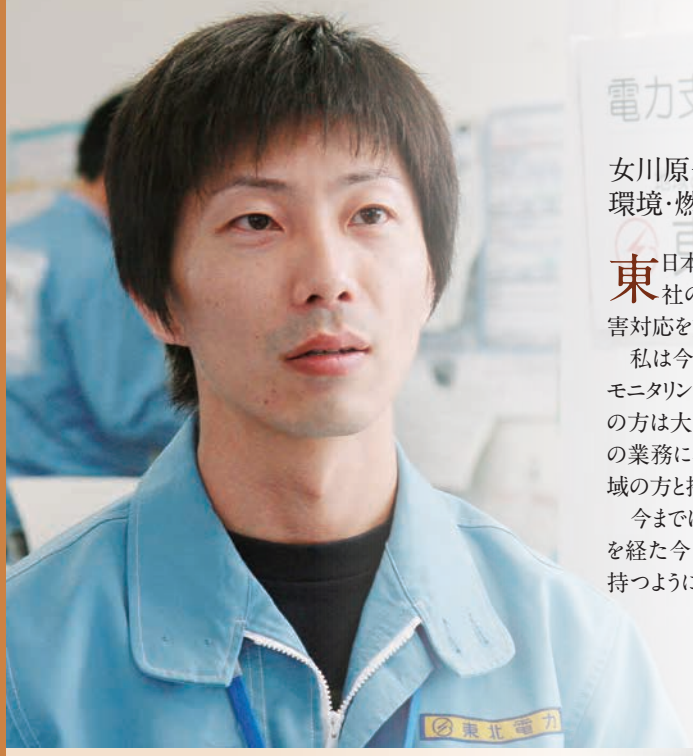
「今やらなくてはならないことに，自分が参加しなければならない」との思いで，今回，初めてこの支援活動に参加しました。

普段は，20km圏内から避難されてきた皆さまの声を聞いているのですが，皆さん「早く帰りたい」「今後，帰ることができるのだろうか」と口にされています。

私は宮城県沖地震，雪害，水害，いろいろな災害を経験してきましたが，どの災害対応でもいえることですが，何が起きても「慌てないこと」が何より大切になってきます。

災害が発生すると，やらなければならないことが一気に出てきます。まず，「何からやらなくてはいけないのか」優先順位をきちんと決めることが，慌てない対応をするために必要なことだと考えます。

この「電力支援チーム」は各電力が集まり，「チーム」で支援活動を行っています。つまり「チームワーク」が重要なのです。自分自身の決められた分担を滞りなく全うし，「チーム」の和を大切にしていきたいと思います。



女川原子力発電所
環境・燃料部放射線管理グループ

市澤 雅樹さん

東日本大震災によって，当社の設備に大きな被害が発生しましたが，他の電力会社の皆さんが当社を助けてくださいました。「今度は原子力部門として原子力災害対応を支援したい」と思い，この支援活動に参加しています。

私は今回で2回目ですが，前回来たとき20km圏外にある家屋の玄関先などで環境モニタリング調査を行いました。放射線についてさまざまな情報が流れている中で，地域の方は大きな不安とともに生活していました。原子力発電所の中で勤務していると自分の業務に専念してしまい，普段地域の方と接する機会はほとんどありません。実際に地域の方と接し，どのような思いで生活されているのかを肌で感じました。

今までは，起きた事象に対して，どう対処するかを考えてきました。この東日本大震災を経た今，想定を超えた災害が発生した場合にどう対応するのかという危機意識を持つようになりました。



東通原子力発電所
総務課調査役

杉 邦明さん

これまで3月，5月，9月と3回ほど福島での支援活動に参加しています。初めて参加するときは不安もありましたが，私は幼い頃双葉町にいたこともあったので，福島第一原子力発電所の今回の影響がどのようなものなのか知りたいという気持ちがありました。

3月には，住民のスクリーニングをさせていただきましたが，「雨に当たってしまったけど大丈夫かな」と心配そうなお兄さん，「また来週も計ってもらいに来てもいいのか」と聞いていくおじいさんなど，皆さん不安でいっぱいでしたが，測定後に問題がないことがわかると，心からホッとしてくださいました。

5月に参加したときは，一時帰宅が始まってすぐのときでした。自宅からの荷物はポリ袋1個しか許可されていないため，皆さんのポリ袋はパンパンでした。

9月は，20km圏内の車両持ち出しのスクリーニングをしましたが，除染が必要な車両もありました。震災後半年以上過ぎましたが，これからもいろいろな形で支援活動は必要だと感じています。

各電力の方々も，土地勘がない中で，地域の皆さま方のために頑張って活動しています。

皆さんも，機会があれば福島支援に参加してみてください。一人一人それぞれに感じるところがあると思います。



関西電力(株)
原子力事業本部原子燃料部長
電力支援本部全体責任者

水田 仁さん

私は入社以来ずっと原子力関係業務に携わってきました。今回，起きてはいけない事故が起こってしまい，原子力に対する信頼が失われてしまったわけですが，ずっと原子力に携わってきた者として，少しでも失った信頼の回復に貢献できればとの思いで，この支援活動に参加しています。

事故から半年以上が経過し，初めて福島に来られた人は，比較的落ち着いているような印象を持たれるかもしれませんが，住民の方々と接すると，今でも放射能について大きな不安を持たれており，決して心は癒えていないことがすぐに分かります。支援活動を行うに当たって，そうした地域の方々のお気持ちを常に意識し，地域の方の目線に立って行動するよう心掛けています。

この支援本部では，各電力会社から派遣された多くの人たちがチームとして仕事をしていますが，派遣者は一定の期間ごとに交代しており，毎日，人が入れ替わっています。そのため，チームとして活動する上で，コミュニケーションを特に大切にして業務を実施しています。

信頼回復には，まだまだ長い道のりだと思いますが，一生懸命頑張って，原子力発電の信頼回復に少しでも貢献できればと考えています。

TOPICS

総務部

第1回大規模災害対策防災会議を開催

東日本大震災の対応から得た課題を生かして

東日本大震災を契機に,当社管内全域にわたる大規模な供給支障事故と原子力発電所のシビアアクシデントが同時並行的に発生する懸念が明らかになりました。また,このような大規模複合災害に加え,頻発している自然災害に対しても対応していかなければなりません。

これらに対する備えを進めるため,「大規模災害対策防災会議」が設置されました。

第1回大規模災害対策防災会議を開催

9月6日、海輪社長を議長として第1回大規模災害対策防災会議が開催されました。

今回の会議では、東日本大震災対応から得られた課題への対応を、今後個別の対策や非常災害対策訓練などへ反映することを確認しました。



会議冒頭,東日本大震災で亡くなられた方に向けて,出席者全員による黙祷がささげられました

海輪社長からの開会あいさつ

これまで当社は、宮城県沖地震を想定して備えを進めてきましたが、今回の東日本大震災を踏まえ、防災会議をさらに拡充・強化していく必要があります。一方で、いくら大規模な災害であっても、情報連絡や安否確認、設備対策などの基本動作は変わりません。この基本動作をブラッシュアップしていくことが、次の備えにつながります。

また、防災を意識した設備形成や部門間の連携も大変重要です。東日本大震災では、日ごろからの訓練をはじめとした備えが大きな成果を上げました。こういった訓練とその意義を伝えていくことも大事です。



開会のあいさつをする海輪社長

東日本大震災の対応から得た課題

今回、各室部・店所から提出された意見は、約1000件に上りました。この中から抽出した課題は、以下のとおりです。

- 事業所の実態に即した避難のあり方
- 東日本大震災で経験した事案に対する担当箇所の明確化
- 後方支援業務内容の明確化
- 自治体との連携（情報収集・伝達）のあり方　など

平成23年度下期本店非常災害対策訓練ポイントは初動

11月に下期本店非常災害対策訓練を実施する予定です。この訓練では、東日本大震災を踏まえ、広範囲にわたる地震と津波による供給支障と設備被害を想定し、青森・秋田・山形・新潟各支店を対象とした日本海側全域での訓練を行います。

訓練は、避難や情報発信といった初動にポイントを置き、災害発生1日目の設定で大規模災害発生時の標準的な内容で進行することとしています。



ご家族を含めた備えを

東日本大震災では、訓練などの日ごろの備えが大きな成果を上げました。津波警報発令時の避難方法の再確認、安否確認方法や緊急避難場所を話し合うなど、ご家族も含めた万一の事態への備えを進めてください。

第7回

第1回～第6回は,S-WING「法務データベース」に掲載しています。

知っ得!法令知識

Q. 警察から当社のお客さまに関する照会があった場合,お客さまの個人情報を教えてしまっても問題ないのでしょうか?



Case.7

○○営業所の皆藤(かいとう) 清日児(きよひこ)さんは,窓口で警察から当社のお客さまに関する照会を受けましたが,「お客さまの個人情報を教えてしまうと個人情報保護法違反になってしまうのでは…」と思い,回答を拒否してしまいました。

A. 警察からの照会に対して当社は回答義務を負います。そのため,書面により根拠法令や照会の趣旨等を確認したうえで,案件に応じて情報の提供範囲を個別に判断し,適切に回答する必要があります。

個人情報保護法23条は,本人の同意を得ないで個人情報を第三者に提供することを原則として禁止していますが,「法令に基づく場合」などについては,例外的にこれが許されるため,本人の同意を得なくても問題ありません。

一般に,法令に基づく照会に対しては,原則として回答する義務が生じますので,照会元や照会の目的,照会の対象となっている情報などに照らし,情報を提供することによる公共的利益と個人情報保護との比較衡量により,どの情報をどの範囲まで提供すべきかについて案件ごとに判断する必要があります。

警察からの照会には,刑事訴訟法218条1項の令状による強制捜査(以下,強制捜査といいます)および同法197条2項の任意捜査(以下,任意捜査といいます)があります。

このうち,強制捜査は強制力を伴いますので,警察からの照会に対して回答する義務を負い,当社において情報の提供範囲を制限することはできません(国税徴収法141条に基づく税務署からの税金滞納者の財産に関する照会なども同様であり,回答しない場合は罰則の適用があり得ます)。

一方,任意捜査は強制力を伴いませんが,警察などの公的機関からの照会は,公益上の必要性が高いと考えられるため,照会に応じるスタンスを取りつつ,案件に応じて情報の提供範囲を個別に判断する必要があります(その他,強制力を伴わない照会については,弁護士法23条の2に基づく弁護士会からの照会などがありますが,「報告を求められた事項について,法律上,報告すべき公的な義務を負う(大阪高裁平成19年1月30日判決)」とされています)。

	根拠法令	強制力	照会に対する回答スタンス
強制捜査	刑事訴訟法218条1項	有	回答する(ただし,本当に必要としている情報が何かを可能な限り確認すること)。
任意捜査	刑事訴訟法197条2項	無	原則として回答する(事案に応じて情報の提供範囲を個別に判断すること)。

当社としては,膨大かつプライバシー性の高い情報を保有していますので,警察から当社のお客さまに関する照会があった場合は,口頭による照会ではなく,原則として文書によって照会を受け,警察からの照会であることおよび根拠法令が明記されていることを確認する必要があります。

なお,緊急を要する場合は,根拠法令の口頭確認のみで,文書の提出は事後でも可としていますので,状況に応じた適切な対応をお願いします。取り扱いに疑義が生じた場合は,まずは上位機関へご相談ください。

参照法令および規程・基準など	
【法　　令】	個人情報保護法23条,刑事訴訟法197条2項,218条2項,国税徴収法141条,弁護士法23条の2
【社内基準】	個人情報取扱基準,営業部門における個人情報に関する運用取扱い
【そ の 他】	個人情報の保護に関する法律についての経済産業分野を対象とするガイドライン(平成21年10月9日 経済産業省)

〈総務部法務室(事業法務)田島 裕貴〉



長い間
ありがとう
ございました

退職者の方々

平成23年8月の退職者（敬称略）※所属は退職時のもの



グループ事業推進部付
エルタス東北出向
武田　清一



グループ事業推進部付
東北発電工業出向
髙橋　修一



グループ事業推進部付
東北発電工業出向
森　悌三



グループ事業推進部付
東北発電工業出向
中野　仁



グループ事業推進部付
東日本興業出向
蜂谷　茂



グループ事業推進部付
北日本電線出向
鴫原　久



火力原子力本部火力部付
東北ボートサービス出向
淡路　博



火力原子力本部火力部付
東北発電工業出向
權平　一治



火力原子力本部火力部付
東北発電工業出向
風間　光夫



火力原子力本部火力部付
東北発電工業出向
五井　昭一



火力原子力本部火力部付
東北緑化環境保全出向
堀川　稔



グループ事業推進部付
エルタス東北出向
阿部　芳徳



研究開発センター
（電気利用）
佐藤　藤男



お客さま本部営業部付
エルク出向
沢　正晃



電力流通本部電力システム部付
通研電気工業出向
八島　宏夫



電力流通本部電力システム部付
東日本興業出向
斎藤　功



電力流通本部電力システム部付
ユアテック出向
高野　正志



電力流通本部電力システム部付
ユアテック出向
中野　博実



秋田支店付
東北インテリジェント通信出向
渋谷　四朗



秋田支店付
トークス出向
樋口　清文



岩手支店付
ユアテック出向
岩渕　純悦



五所川原営業所
総務課
白岩　行夫



青森支店付
エルタス東北出向
濱端　健治



青森支店付
東北電広社出向
小泉　孝彦



宮城支店付
エルタス東北出向
宮崎　文男



宮城支店付
ユアテック出向
八木　勝美



宮城支店付
ユアテック出向
菅野　清



秋田営業所
配電計画課
加藤　秀敏



秋田支店付
東北用地出向
小野　猛



新潟支店付
ユアテック出向
坂田　真也



須賀川営業所
配電課
橋本　吉男



福島支店付
東北緑化環境保全出向
荒川　和久



福島支店付
ユアテック出向
谷地　敬治



山形支店付
ユアテック出向
川口　巳喜男





新潟支店付
エルク出向
宮尾　正夫



新潟支店付
日本海エル・エヌ・ジー出向
伊達　義郎



新潟支店付
ユアテック出向
紫竹　正敏

掲示板

平成23年度第1回火力原子力本部長表彰

件　名	概　要	受賞者
東日本大震災発生に伴う能代火力発電所からの八戸火力発電所起動用軽油の緊急転送について	当社事業所連携による発電所起動用軽油の緊急転送スキームを考案し,短期間で八戸火力発電所の再起動に必要な軽油を能代火力発電所より転送することで,震災直後の供給力を確保した。	能代火力発電所 八戸火力発電所 燃料部(燃料購買)
能代火力発電所構内排水設備の運用改善について	能代火力発電所の排水処理設備について,運用性を向上させたことで,多量の排水が発生するユニット起動時の起動時間を短縮させ,また,大雨などにおいても裕度のある排水処理運用を可能とした。	能代火力発電所
女川原子力発電所3号機燃料漏えいに伴う出力抑制法の的確な実施について	女川3号機の燃料漏えい対応において,燃料からの放射性物質の漏えいを抑制し,計画外停止を回避したことから,当社の安定した電力供給に多大な貢献をした。	女川原子力発電所技術課 高橋浩一,　松藤芳弘, 神崎千夏,　箱崎　佑, 宮腰拓巳,　茂木　奨, 工藤良文,　藤沢　悠

燃料費調整制度

9月29日,平成23年8月の貿易統計値が公表されたことに伴い,平成23年6月～8月の平均燃料価格が確定しましたので,「燃料費調整制度」による平成23年11月分の電気料金に適用される単価をお知らせします。

平均燃料価格

(単位:円／kℓ)

平成23年6月～平成23年8月平均燃料価格（平成23年11月分料金に反映）	平成23年5月～平成23年7月平均燃料価格（平成23年10月分料金に反映）	基準燃料価格
32,900	32,700	31,000

燃料費調整単価

(単位:銭／kWh)

	平成23年11月分料金への適用調整単価(A)	平成23年10月分料金への適用調整単価(B)	適用単価の差額(A−B)
電灯・低圧	32	29	3
高圧	31	28	3
特別高圧	30	27	3

※消費税等相当額を含みます。

標準家庭への影響

(単位:円／月)

	平成23年11月分	平成23年10月分	10月分との差額
電気料金	6,669	6,661	8

※標準家庭の電気料金は,契約電流30A,使用電力量280kWhで計算。消費税等相当額を含みます。
※電気料金には太陽光発電促進付加金を含みます。

貿易統計実績

	平成23年6月～平成23年8月平均	平成23年5月～平成23年7月平均	平成20年1月～3月平均(料金改定時)
原油価格(円/kℓ)	57,240	58,852	62,735
(ドル/b)	114.1	115.6	93.0
LNG価格(円/t)	64,746	61,743	58,282
石炭価格(円/t)	11,203	11,202	8,873
為替レート(円/ドル)	80	81	107

東北電力社誌「ブリッジ」
BRIDGE 2011 October Vol.615 10

編集後記

BRIDGEやNEWSスクエアにおいて原稿を書くとき,毎回自分の『知識のなさ』を痛感します。今まで何回か耳にすることがあっても,あらためて内容を考えると正しく理解していなかったり,人に伝えるときにうまく説明できなかったり…。また,社内での説明とお客さまに対する説明の仕方も変わってきます。

社会の電力業界に対する関心が高まっている中,エネルギーのこと,当社のことなど,皆さん一人一人がしっかり理解し発信できるよう(自分自身の勉強を含め),今後の社内報でもバックアップしていきたいと思います。

広報・地域交流部(広報・交流企画)大滝　保安.910-3024,w059001

今月号のBRIDGEは非常に盛りだくさんの内容になりました。

「それぞれの3.11」は,石巻技術センターを舞台に,電力流通設備の早期復旧にかける電力マンの思いをお伝えしました。座談会で生でお話を伺いましたが,復旧への思いというのは,たとえ部門は違っても,共有できることがよく分かりました。BRIDGEを通じてその思いが皆さんとも共有化できれば,これほど編集者冥利に尽きるものはありません。

「風力発電導入拡大実証試験」の解説記事では,どう分かりやすく伝えるかに心砕きました。『言葉だけでは伝わりにくい内容を図で解説する』言葉で言うのは簡単ですが,伝える難しさをあらためて実感しました。

広報・地域交流部(広報・交流企画)斎藤　保安.910-3023,w060177

社内テレビ放送
「NEWSスクエア」
第1・第3月曜日～水曜日に放送。
放送時間:9時,10時,12時,12時40分,
13時10分,17時,17時30分



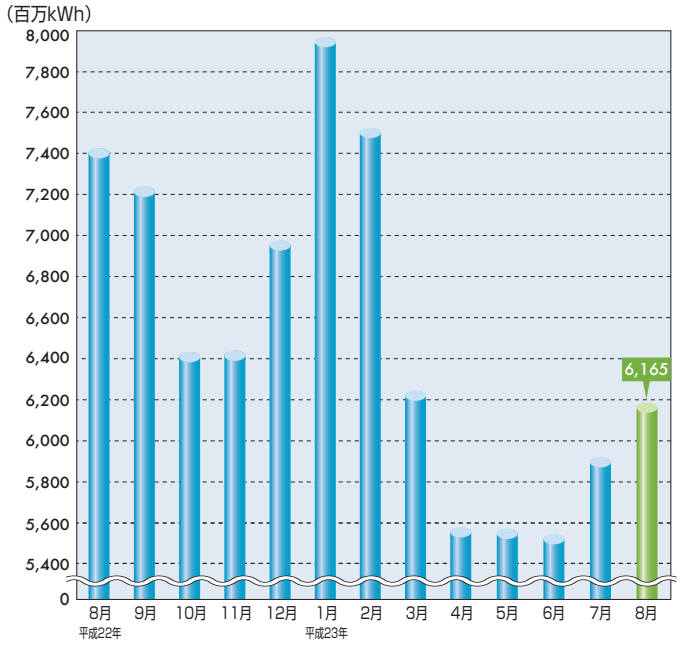
都合のよい日時を選んで,ぜひご覧ください。
お問い合わせは,下記の担当者までお気軽にどうぞ。
ご意見・ご感想・情報提供などもお待ちしています。

広報・地域交流部(広報・交流企画)
大滝 保安.910-3024,w059001

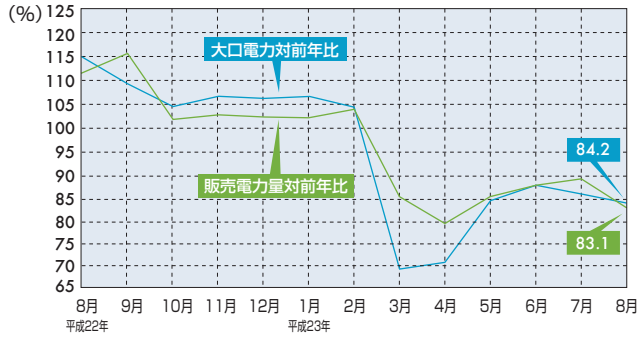
DATA FILE

▶電力需給実績（平成23年8月分）

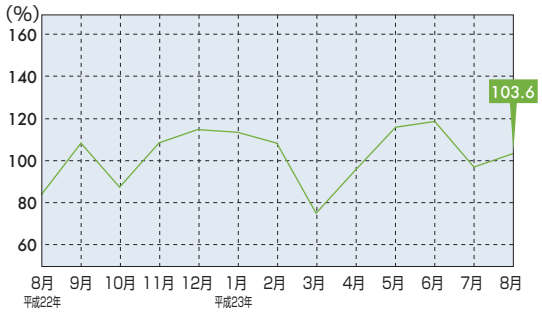
販売電力量



販売電力量対前年比・大口電力対前年比



出水率



エネルギー種別別発受電電力量

（百万kWh）（　）内は構成比%



■電力需要について

8月分の販売電力量は,61億6,500万kWh,対前年比83.1%の実績となり,東日本大震災の影響,節電などへのご協力,前年の高気温の反動などにより,6カ月連続で前年実績を下回りました。

【特定規模需要以外の需要（自由化対象以外のお客さま）】

電灯は,東日本大震災の影響,節電へのご協力,前年の高気温の反動などにより,対前年比83.1%の実績となりました。

特定規模需要以外の需要の合計では,対前年比82.9%の実績となりました。

【特定規模需要（自由化対象のお客さま）】

業務用電力は,東日本大震災の影響,節電へのご協力,前年の高気温の反動などにより,対前年比78.5%と前年を下回る実績となりました。

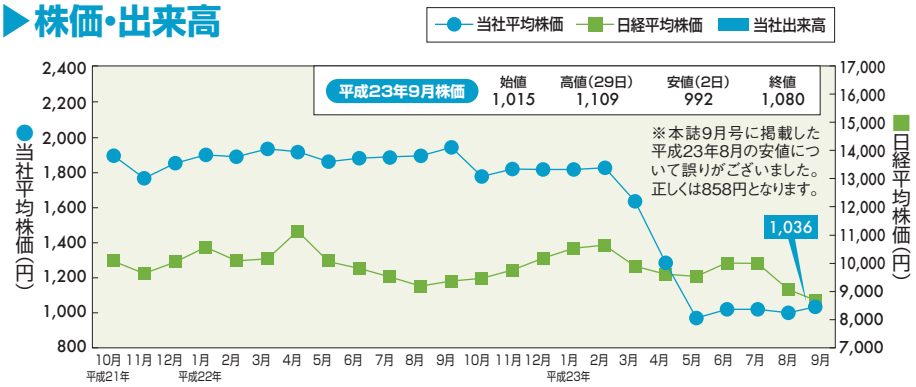
特定規模需要の合計では,対前年比83.3%の実績となりました。

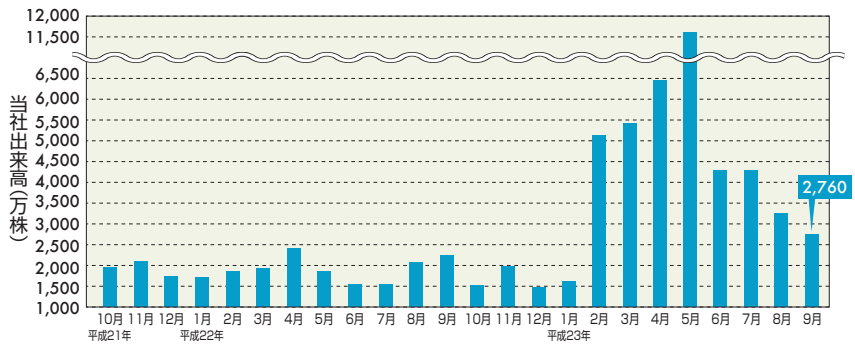
なお,産業用その他電力については,大口電力が大きなウエートを占めており,その概要は以下の参考のとおりです。

[参考]大口電力

大口電力は,東日本大震災の影響,電力使用制限令の影響,前年の高気温の反動などにより,対前年比84.2%の実績となり,6カ月連続で前年実績を下回りました。

▶株価・出来高





株式まめ知識
「株価の変動要因」

今回は,前回紹介したキャピタルゲインの発生要因である,株価の変動について紹介します。

株価は,基本的には他の商品と同様に需要と供給のバランスによって決まります。需要（買い）が供給（売り）を上回れば上がり,逆の場合は下がります。

また,株価は経済や社会の動きを映し出す鏡といわれるように,需給バランスの変動には,特定の企業の業績（「個別要因」）ばかりでなく,市場全体に影響を及ぼす無数の要因（「市場全体の要因」）が複雑に絡み合っています。

◎**金利**…一般に金利が下がれば株価は上がり,金利が上がれば株価は下がります。預金などの金利が低いと,相対的に高い収益を求めて株式投資が増加し,株価が上がります。反対に,金利が高いと,利率の高い預金などが選好されるため,株価が下がります。

◎**為替**…プラス・マイナスの両面がありますが,一般に輸出企業の業績にとって円高はマイナス,円安はプラスに働きます。日本は輸出企業が多いため,一般に円高になると株価が下がります。また,為替は外国人投資家の行動にも影響を与えます。

その他にも,国内外の政治・経済の情勢,自然災害や天候なども株価に影響を与えます。東日本大震災の後,生産活動の停滞を見込んで,国内の株価が大幅に値を下げたのは記憶に新しいところです。一方で,災害から人々の活動が立ち直り始めると,復興需要が発生し,株価が上がることも経験的に知られています。

2011.9.30(Fri)



東日本大震災によって大きな被害を受けた新仙台火力発電所。現在，所員全員と関係会社やメーカー，協力会社が一丸となり，復旧を目指して取り組んでいます。

そのような中，新仙台火力では「復旧作業を無事に乗り切りたい」「同じTシャツを着て皆が一致団結して復旧作業に取り組みたい」との思いから，有志による『復興Tシャツを作ろう会』が発足し，復興Tシャツを作りました。また，被災された方に対しても何かできないものかと考え，義援金を付加した形でのTシャツ販売とすることで，復興への思いを表しています。

9月7日の時点で，846枚ものTシャツを購入いただき，義援金は682,275円にも上りました。この義援金については，「仙台地区火力発電所で共に働く仲間」との名義で宮城県にお渡ししています。



復興Tシャツを作ろう会メンバー
代　　表／髙橋市郎（発電環境グループ）
メンバー／伊藤大志（総務グループ），千葉智徳（技術グループ），
志田良介（技術グループ），浪波武史（発電技術グループ），
安原和香子（運営企画グループ），鎌田紗都（建設所技術課），
堀見慎吾（建設所土木建築課）
後方支援／安達裕治（副所長）

発行所／東北電力株式会社 広報・地域交流部　発行人／長谷川 登　印刷／今野印刷株式会社　平成二十三年十月十日発行

Waterless Printing. Naturally.
PRINTED WITH SOY INK
この印刷物は、環境にやさしい「水なし印刷」「植物性大豆インク」を使用しています。